

真宗學

第 139 號

親鸞撰述における『弥陀如来名号徳』の特異性 (上)	殿内恒
「行文類」における第十七願の意義について	井上善幸
親鸞における対象喪失 (下)	
～親鸞思想とグリーフケアとの接点を求めて～	打本弘祐
親鸞思想における	
「願生往生の主体」(「仮名人」) の了解について	渡邊了生
親鸞における聖道門観	逸見世自在
真宗学の「実践」研究における「主体」の問題	入江 楽
核兵器の時代における「生老病死」	
— 地球上からの核兵器廃絶の願いを込めて —	武田龍精
Shinran's Idea of Realization in Shinjin and Nembutsu	Mitsuya Dake

平成 31 年 3 月

龍谷大學 真宗學會

目次

親鸞撰述における『弥陀如来名号徳』の特異性(上)	殿内恒(一)
「行文類」における第十七願の意義について	井上善幸(三)
親鸞における対象喪失(下)	打本弘祐(五)
親鸞思想とグリーフケアとの接点を求めて	渡邊了生(八)
親鸞思想における	逸見世自在(二〇)
「願生往生の主体」(「仮名人」)の了解について	入江 楽(二三)
親鸞における聖道門観	武田龍精(四三)
真宗学の「実践」研究における「主体」の問題	武田龍精(四三)
核兵器の時代における「生老病死」	武田龍精(四三)
——地球上からの核兵器廃絶の願いを込めて——	武田龍精(四三)
真宗学会消息	編集後記(二九)
編集後記	編集後記(二九)
平成二十九年真宗学関係論文目録	編集後記(二九)
Shinran's Idea of Realization in Shinjin and Nembutsu	Mitsuya Dake (1)

真宗学会消息

平成三十年度 真宗学会評議員理事会・運営協議会

第一回龍谷大学真宗学会運営協議会

平成三十年五月二十九日(火) 十六時四十五分より

西饗二階大会議室にて

一、学会長挨拶 龍溪 章雄先生

一、議長団選出

議長 徳平 美月(文学研究科博士二回)

副議長 藤雄 正受(文学研究科博士三回)

副議長 深見 慧隆(文学研究科博士一回)

書記 高田 夏美(文学研究科修士一回)

書記 小野 優菜(実践真宗学研究科修士一回)

一、自己紹介

一、役員の変更について(打本弘祐先生)

一、平成二十九年度決算(打本弘祐先生)

一、平成三十年度予算(打本弘祐先生)

一、各委員会活動予定について

(一) 庶務委員会(望月海音)

・学会費の徴収・管理・運営について

(二) 研究委員会(文珠四郎琢磨)

・真宗学会研究発表会について

・卒業論文中間発表について

・第七十二回真宗学会大会について

(三) 編集委員会(山名深)

・真宗学科学生論文について

・雑誌『真宗学』第一三九・一四〇号発行について

(四) 親睦委員会(木山広勝)

・真宗学会研修旅行の予定について

(五) ホームページ委員会(都河陽介)

・真宗学会ホームページについて

一、その他

評議員理事会

平成三十年十一月六日(火) 十二時十五分より

清和館三階大ホールにて

一、役員の変更について(打本弘祐先生)

○理事の退任

・川添 泰信先生(龍谷大学)

・早島 理先生(龍谷大学)

・ケネス 田中先生(武蔵野大学)

○評議員への就任

・内田 准心先生(龍谷大学)

・森田 敬史先生(龍谷大学)

・金澤 豊先生(龍谷大学)

一、平成二十九年度決算(打本弘祐先生)

一、平成三十年度予算(打本弘祐先生)

- 一、来年度の真宗学会大会について
- 一、その他

以上の議案が、真宗学会運営協議会並びに評議員理事会における審議にて議決されました。また、平成三十年度真宗学会運営協議会の年間行事に関する詳細な報告は各委員会に譲りませんが、いずれも滞りなく開催されましたことを併せてご報告いたします。今年度もご協力を賜りました諸先生方、及び各ゼミ委員の皆様は厚く御礼申し上げます。

(報告 運営協議会議長 徳平美月)

庶務委員会報告

平成三十年度

- ・ 四月 新入生への入会案内
- ・ 五月 会計等の引き継ぎ
- ・ 六月 新入会員の名簿作成。その他会員の名簿整理
- ・ 六月 予算案の作成と決算報告の確認
- ・ 六月 学費納入依頼状の作成と発送(併せて真宗学会大会の日程を告知)
- ・ 九月 学生会員への会費納入の督促
- ・ 九月 真宗学会大会案内状の発送
- ・ 十一月 今年度の学費納入状況の整理
- ・ 十一月 真宗学会大会における学費納入受付ならびに記念写真申し込み受付

(今年度より購入したパソコンを用い、住所変更・学費納入に関する確認を行った。)

- ・ 一月 学生会員への会費納入の督促(卒業予定者へ)
- ・ 三月 卒業式・学位授与式にて会費督促。及び一般会員への入会案内

平成三十年度の収支決算報告書の作成

学費と会計について、ご不明な点・お気づきの点等ございましたらご連絡ください。

(報告 望月海音)

研究委員会報告

◇第一回卒業論文説明会

期日 平成三十年六月五日(火)

- 会場 龍谷大学大宮学舎 清和館三階大ホール
- 卒業論文説明 那須 英勝(龍谷大学教授)
- 体験談 井浦 智真(修士一回)
- 鷺地 宗 (修士一回)

◇真宗学会研究発表会

期日 平成三十年七月十二日(木)

- 会場 龍谷大学大宮学舎 清和館三階大ホール
- 発表者および発表題目

①中国における般若三昧の展開に関する一考察

都河 陽介(博士二回)

② 真宗仏性論の再検討 那須野浄彰 (博士二回)

③ 近代における真宗教義の英訳と中井玄道 嵩 宣也 (博士三回)

④ 初期真宗における還相回向の研究 徳平 美月 (博士二回)

⑤ 源信における弥勒信仰の受容について 廣澤彌々子 (博士二回)

⑥ 親鸞の儒教観 水岡 知典 (博士二回)

◇卒業論文中間発表会

期日 平成三十年十月二十五日(木)

会場 龍谷大学大宮学舎 清和館三階大ホール

発表者および発表題目

① 初期真宗における義絶と問題

——とくに善鸞について——

② 親鸞における愚者の救い

③ 葬儀を通して考える日本の仏教と浄土真宗

④ 善鸞の義絶についての一考察

⑤ 蓮如の大阪における教化活動

——光福寺資料をめぐる——

⑥ 真宗における真俗二諦について

⑦ 臨床宗教師の展開と可能性

⑧ 親鸞における善導の六字釈の受容

◇龍谷大学真宗学会第七十二回大会

期日 平成三十年十一月六日(火)

会場 龍谷大学大宮学舎 清和館三階大ホール

日程

一、研究発表

① 親鸞における聖道門観 逸見 世自在 (博士二回)

② 近代真宗における英訳の研究

——シカゴ万国宗教会議からの展開を中心に——

③ 善導の衆生教化について 高 宣也 (博士三回)

④ 真宗学の「実践」研究における「主体」の問題 藤雄 正受 (博士三回)

⑤ 知空の行信論研究 入江 棗 (博士三回)

⑥ 『教行信証』伝授の一試論 伊藤 顕慈 (個人会員)

——寂如上人御講義を通して——

⑦ 近世真宗における小児往生論の展開 三浦 真証 (龍谷大学講師)

井上 見淳 (龍谷大学准教授)

二、評議員理事会

三、記念講演

清和館三階大ホール

清和館三階大ホール

三、記念講演

清和館三階大ホール

テーマ 親鸞教学と現代思想

講師 龍谷大学名誉教授 廣田 デニス氏

四、記念撮影 本館講堂前

五、総会

清和館三階大ホール

- ① 学会長挨拶
- ② 六角仏教会奨学金の伝達式
- ③ 議長選出
- ④ 総会

◇ 第二回卒業論文説明会

期日 平成三十年十二月六日(木)

会場 龍谷大学大宮学舎 清和館三階大ホール
卒業論文の説明 那須 英勝(龍谷大学教授)
体験談 江原 来伯(修士一回)
望月 海音(修士一回)

以上が、本年度の研究委員の活動でございます。皆様の御協力により、本年度も全日程を成功の裡に終えさせていただきます。この場を借りて、御礼申し上げます。

今後、善い面を継続しつつ、反省点を改善しながら、より充実した運営に努めてまいります。どうぞよろしく願います。
(報告 文珠四郎琢磨)

編集委員会報告

平成三十年度

- ・ 四月二十三日 第一回編集委員会会議
- ・ 四月二十四日 『真宗学』第一三七・一三八合併号配布

開始

・ 七月中旬

真宗学資料室の整理、『真宗学』・真宗学科学生論集』の残部集計

・ 十月二十四日

第二回編集委員会会議

・ 十一月六日

第七十二回真宗学会大会記念講演収録

・ 十二月下旬

『真宗学』第一三九・一四〇号、永田文

昌堂へ原稿提出開始

・ 二月上旬

『真宗学』第一四一・一四二号原稿執筆

依頼

・ 二月上旬

『真宗学科学生論文集』論文提出依頼

・ 三月

『真宗学』第一三九・一四〇号完成(予定)

平成三十年度の編集委員会は、例年の活動(『真宗学』の刊行・配布)に加え、真宗学資料室の整理、『真宗学』・真宗学科学生論集』の残部集計に精力的に取り組みました。また、ホームページ委員に『真宗学科学生論集』をPDF化しホームページ上に掲載していただきました。さらに、真宗学会のインターネットのホームページに『真宗学』の広告を掲載させていただきました。これによって販売に関するお問い合わせをいただきました。これも、インターネット販売に大きくご尽力くださいました諸先生方、並びにホームページ委員、庶務委員の皆様のお蔭であります。

また、各誌の執筆・配布等につきましては、諸先生方、大学院生の方々のご協力をいただきました。重ねて、厚く御礼申し

上げます。

(報告 山名深)

親睦委員会報告

平成三十年度 真宗学会研修旅行

「蓮如上人・顕如上人ゆかりの紀州浄土真宗と道成寺―安珍・清姫の悲恋物語を訪ねて」

【日程】

九月十七日(月)

和歌山駅(集合) ↓和歌山市立博物館↓道成寺↓ホテルシー

モア

九月十八日(火)

ホテルシーモア↓鷺ノ森別院↓和歌山マリーナシティ(昼食) ↓了賢寺↓念誓寺↓和歌山駅(解散)

今年度の真宗学会研修旅行は、和歌山県で行われた。テーマにもあるように蓮如上人、顕如上人ゆかりの土地でもある紀州の浄土真宗をはじめ和歌山の寺院に触れるという目的のもと、和歌山県の各地を巡った。近年の学会研修旅行は、北は北海道から南は鹿児島と遠方への研修が多い中、今回は近場での研修であった。個人的には身近な場所ほど訪れる機会も少ないと感じることもあり、浄土真宗というご縁がなければ今まで行くことはなかった場所で、多くの学びを得ることができたため、とても意義のあるものになった。参加者は、龍溪章雄先生、深川宣暢先生、鍋島直樹先生、那須英勝先生、玉木興慈先生、井上

善幸先生、高田文英先生、佐々木大悟先生、内田准心先生、及び、親睦委員会含む学生十五名の合計二十四名であった。

〈九月十七日〉

昼十二時半に各々和歌山駅に集合の後、バスで出発した。幸い遅刻する者もおらず、予定通りの進行であった。出発してすぐに鍋島先生からご挨拶をいただき、その日の大まかな日程を確認した。そうして最初の目的地、「和歌山市立博物館」に10分程で到着した。和歌山市立博物館では本願寺派十代目宗主である証如上人の編纂した「御文章」、一五七一年に描かれたとされる「親鸞聖人御絵伝」、文明八年に書かれた親鸞聖人と蓮如上人の絵像の三つを見せていただいた。これらは、本来一般公開していないが、今回別院が特別に閲覧を許可してくださった。どれも丁寧に保存されていたことが窺える状態の良いもので、「御文章」は五帖そろい踏みて装飾も立派なものであった。特に「聖人一流章」や「白骨章」など、今でも多く拝読される部分が手垢の跡で黒ずんでおり、当時から変わらぬ拝読されていたという真宗伝道の歴史を垣間見ることができた。絵像に関しては、高田先生から見解や解説などもいただき、とても充実した時間を過ごすことができた。閲覧した後は博物館の方々にお礼を述べ、バスに乗り込み、博物館を後にした。次に向かったのは初日最後の訪問場所、道成寺である。到着するまでに博物館の感想を先生と学生一人ずつからいただき、そこで初めて親睦委員の紹介もさせていただいた。我ながら緊

張気味で、拙い進行になつてしまつたことは面目次第もない。紹介の次は、和歌山教区の布教使である庵戸さんと山本さんにバスに同乗していただき、到着までお二方の御法話を聴聞させていただいた。紀州浄土眞宗についてのありがたいお話をいただき、また二日目の訪問先の予習もすることができた。博物館からバスに乗つて約一時間後、道成寺に到着。広い境内に、お堂がいくつも立ち並んだ大きな寺院であつた。まずはご住職の案内のもと、道成寺の概説をしていただいた。見学者は我々の他に一般の観光客の方もおり、観光地としての側面が垣間見られた。道成寺は天台宗の寺院で現存する和歌山県最古の寺院と言われている。最初に案内されたのは数々の仏像が安置された宝仏殿と呼ばれる場所であつた。色も形も様々な仏像が周囲に立ち並び、圧倒される空間であつた。そこでご住職から解説をいただいた。それぞれの仏像の謂れや寺院の成り立ち、どれを取つても眞宗にしか触れる機会がなかつた私にとつて新鮮なものであつた。解説の後はお堂の中を拝観した。その中に一際学生の注目を集めた仏像があつた。その仏像、今回の研修参加者の一人の学生の顔と瓜二つだったのである。いや、本当に彼をモデルに彫られたのではなからうかと思える程似ていた。写真をここに載せられないのが非常に残念でならない。その後、ご住職による安珍・清姫の悲恋物語の絵巻き説法を聴聞した。ご存知の方もいらつしやるかと思うが、安珍・清姫の物語は端的に言えば、イケメン僧侶と愛の重い女性が織り成す昼ドラもびつくりの愛憎劇である。あまり気持ちのいい話とはいえないの

だが、そこで驚かされたのはご住職の手腕である。軽快な巻物捌きに、おかしな喩えを交えながら、時には聴聞者にも問いを投げかけながら笑わせ、まるで喜劇を見ているかのような雰囲気を作り出していった。実際、私は笑つていた時間の方が長かつたように感じた。ご住職はもう数千回の絵巻き説法をやつてきたと仰つていたが、納得の回数である。そして、説法の最後に教えてくださったのが「妻宝極楽」である。妻を大切にすることが家庭の平和に繋がるのだと結び、絵巻き説法は終わった。既婚者の方々は特に感じるものもあつたようだが、私もいつか実感する日が来るのであろうか。絵巻き説法の後には、寺院内を隅々まで見学し、記念撮影を行い、道成寺を後にした。眞宗学科に所属して以来、これほど他宗派の寺院を詳細に見学したことはなかつたため、とても貴重な経験をさせていただいた。

道成寺の後には、皆が待ちかねた白浜温泉のホテルへと向かつた。到着までの間、また先生と学生から感想をいただき、私自身もふと思いついた小話を披露した。その後は参加者も疲れたのか、舟を漕ぎ始める者も見受けられた。到着までのバス内は静かだったが、一時間ほどして目の前に海と温泉の湯気が立ち上つている建物が見え始めると、心なしか皆のテンションも上がったようだった。そして、海岸沿いにあるホテルに到着した。事前に写真を見ていたため、豪華そうなホテルというイメージはあつたのだが、実物も綺麗な外観と内装で、学生の身でそう入れるものではない雰囲気を感じ取つた。ホテルのフロントに集合し、全員に部屋割りを伝え、夕飯と懇親会までの時間

は自由時間として解散した。懇親会は豪華な食事が並んだ畳の部屋で行われた。司会進行は親睦委員の学生が務め、初めに鍋島先生からご挨拶をいただき、続いて、龍溪先生に乾杯の音頭をとっていただいた。しばらく歓談した後、今回の参加者全員の自己紹介をしていただいた。まず学生から順に名前と所属、出身、趣味などを紹介していった。最近観た映画についての話題が多かったが、中には個人的な趣味を暴露させられた者もいて、大いに盛り上がった場面もあった。先生の自己紹介の後にはまたそれぞれが歓談し、学生間は勿論、先生と学生も笑顔で言葉交わし、最後の締めまで明るい会話が止むことはなかった。懇親会のあとは自由時間である。このために来たと言わんばかりの勢いで私は友人と共に温泉に向かった。決して温泉が研修のメインイベントなどとは思っていない。しかし、至高の時間であった。温泉は三階に分かれた構造になっていて、それぞれが違う形状の温泉という広々とした場所で、まさに豪華としか言えない空間であった。そこでゆつたりとした時間を過ごし、研修の疲れと親睦委員としての緊張で張り詰めた体と心の疲れを癒した。温泉の後は各々の部屋で皆自由に過ごしていた。酒を片手に語らう部屋、カードで遊ぶ部屋、早急に就寝する部屋に分かれていた。酒以外は、修学旅行を彷彿とさせる雰囲気であった。そうして、一日目の研修は幕を下ろした。

へ九月十八日

朝の目覚めはとても爽快、とはいかなかった。自分の責任なのだが、早くに床に就いたわけではなかったため、若干の臉の

重みを抱えたまま朝食に向かった。会場は海が一望できる場所でも綺麗だった。その後、八時過ぎにフロントに集合し、ホテルを出発した。目的地に到着するまで二時間を要したため、その日の予定を大まかに確認した後、夜眠れなかった者も多かったようで、各々静かに過ごしていた。私も少しばかり夢の中へ。到着する少し前に目を覚まして座席を振り返ると、そこに広がっていた光景はまさに死屍累々。アナウンスを入れ全員を起こし、二日目最初の訪問先、鷺ノ森別院へ到着した。

鷺ノ森別院は蓮如上人の弟子が建立した了賢寺を起源とする、紀州浄土真宗の中心となる寺院の一つである。バスを降りると、門の前で甲冑を纏い雑賀衆と書かれた幟を背負った方が私たちを出迎えてくださった。孫市の会の森下さんである。孫市の会とは、紀州で活動していた傭兵集団である雑賀衆を伝承するための会である。今回は鷺ノ森別院の歴史と、この雑賀衆のお話も聞く機会をいただいた。別院内で親睦委員の調声で動行した後、別院の方と森下さんよりお話をいただいた。蓮如上人が紀州を訪れ、そこから浄土真宗の教線が着実に拡大していき、御坊を三度移転させ、その三度目の移転先が鷺ノ森別院となったという。また、当時の鷺ノ森は紀伊の国の勢力を占める雑賀衆の拠点であり、彼らの熱心な信仰によって確固たる土台を形成し、本願寺が織田信長と争った際には雑賀衆に力添えをいただいていたそうだ。その土地の勢力と上手く手を取り、紀州浄土真宗の土台を形成した蓮如上人とその弟子の手腕と歴史を知ることができた。そして、それを支えた雑賀衆の存在は紀州で語り継

いでいくべきものであると感じた。森下さんのお話では、力強い口上なども披露してくださり、戦乱の世を戦い抜いた人々のとても興味深いお話を聞くことができた。講演の後には、別院の前で記念撮影を行い、再び森下さんが幟を振りながら見送ってくださる中、別院を後にした。

次に向かったのは和歌山マリーナシティである。そこで昼食をとった。マリーナシティは海沿いにあるヨーロッパをモチーフにしたテーマパークである。そこで優雅に欧風ランチを食すのかと思いきや、バスを降りて向かったのはパーク内にある黒潮市場。その市場内のお店でマグロ定食をいただいた。ヨーロッパの街並みと海を眺めながら食べる厚切りのマグロは実に美味であった。これがほんとの和洋折衷なのかもしれない、などと実にくだらけな発想をしてみた。

各々食事を済ませ腹を満たしたところで次に向かったのは、紀州浄土真宗の起源ともいえる了賢寺。バスが通れる道がないということで、近くの駐車場で下車し、徒歩で了賢寺へ向かった。日本で一番海に近接している寺院と言われているようで、実際本堂のすぐ横には海が見えるという立地であった。了賢寺ではご住職から寺院のお話を聞かせていただき、その後了賢寺の開祖である了賢が蓮如上人から授かったとされる阿弥陀如来絵像と、蓮如上人直筆とされる「信心獲得章」と「正信偈」を見せていただいた。その地域一帯の真宗の起源と称されるに相応しい説得力をもった書物であった。本堂を拝見していると、坊守さんがお茶を淹れてくださり、皆それをいただいていた

りとした時間を過ごし、最後に記念撮影をした後、皆バスへと戻った。

最後に向かったのは研修最後の目的地、念誓寺である。念誓寺は龍谷大学名誉教授であられた岡亮二先生ご出身の寺院ということで、到着の前に岡先生の教え子である玉木先生と井上先生から少々お話をいただいた。念誓寺もバスが入れる道ではなかったため、近くの道路でバスを降りて、徒歩で向かった。バスの中で玉木先生が「見ても寺院だとわからない」と仰っていたが、確かに中に入るまで寺院だと認識できなかった。外観は整った長方体で、周囲には水が張っているというモダンな造りだったためである。最近できた博物館だと言われても疑わないだろう。それほど現代に馴染んだ綺麗な建物であった。中に入ると、正面には阿弥陀如来像が安置されており、本尊の背面の壁には真筆本の「教行信証」の「正信偈」の一部が刷られている。真ん中の通路を挟み、両側に椅子が整列されたシンメトリの構造は教会のを彷彿とさせた。また、本堂全体を覆う木製の壁には、建物を囲む水辺の水面が日光の反射で映し出され、心を穏やかにさせる空間を生み出していた。勤行の後、岡先生の娘さんであられるご住職からお話をいただいた。念誓寺のデザインは岡先生のプロデュースだそうで、家族内でも対立が起きたという。お話が進むにつれ、岡先生の拘りを知り、度重なる熟考の末に完成したのがこの御堂なのだと思感した。特に、正面の壁に刷られた真筆本の御文に関して「親鸞聖人の推敲の跡にこそ御心が顕れている」という岡先生の拘りには頷か

された。お話の後はお茶をいただきながら、御堂を拝見し、最後に岡先生の書籍をいただき、念誓寺での研修を終えた。

日も傾き始め空が茜色に染まる頃、バスは解散地の和歌山駅へと向かった。到着の直前に、鍋島先生、龍溪先生、そして、親睦委員会の三人の挨拶で研修の締めとした。余談だが、駅到着と同時に私の挨拶で完璧に締め切った瞬間は爽快だった。それはさておき、挨拶も終えたところで和歌山駅にて解散となった。もうしばらく和歌山を堪能しようと食事に向かう者、お土産を買う者、電車で帰路に就く者、それぞれ思い思いに別れ、今年度の研修は幕を閉じた。

最後に、今回の研修の計画並びに旅行会社との交渉をさせていただいた鍋島先生、参加してくださった先生方、学生の皆様、また、今回の研修の広報に協力してくださった真宗学科の先生方、学生の皆様、そして真宗学会の為に研修先として受け入れてくださった訪問先の方々に今回のような素晴らしい真宗学会研修旅行が実現できたこと、謹んで感謝申し上げます。

(報告 木山広勝)

ホームページ委員会報告

平成三十年度

・四月 「教員紹介」を更新

「卒業論文評価基準」・「真宗学科卒業論文提出チェックシート」・「卒業論文作成マニュアル」・「書式サンプル縦・横」・「論文検索マニュアル」

を更新

・六月 「真宗学科学生論文」を掲載

第七十二回真宗学会大会の申込要領を掲載

卒業論文体験談資料・行事カレンダーを更新

・九月 平成三十年度真宗学会研修旅行の報告を掲載

・十月 第七十二回真宗学会大会の要項を掲載

・十一月 第七十二回真宗学会大会の報告を掲載

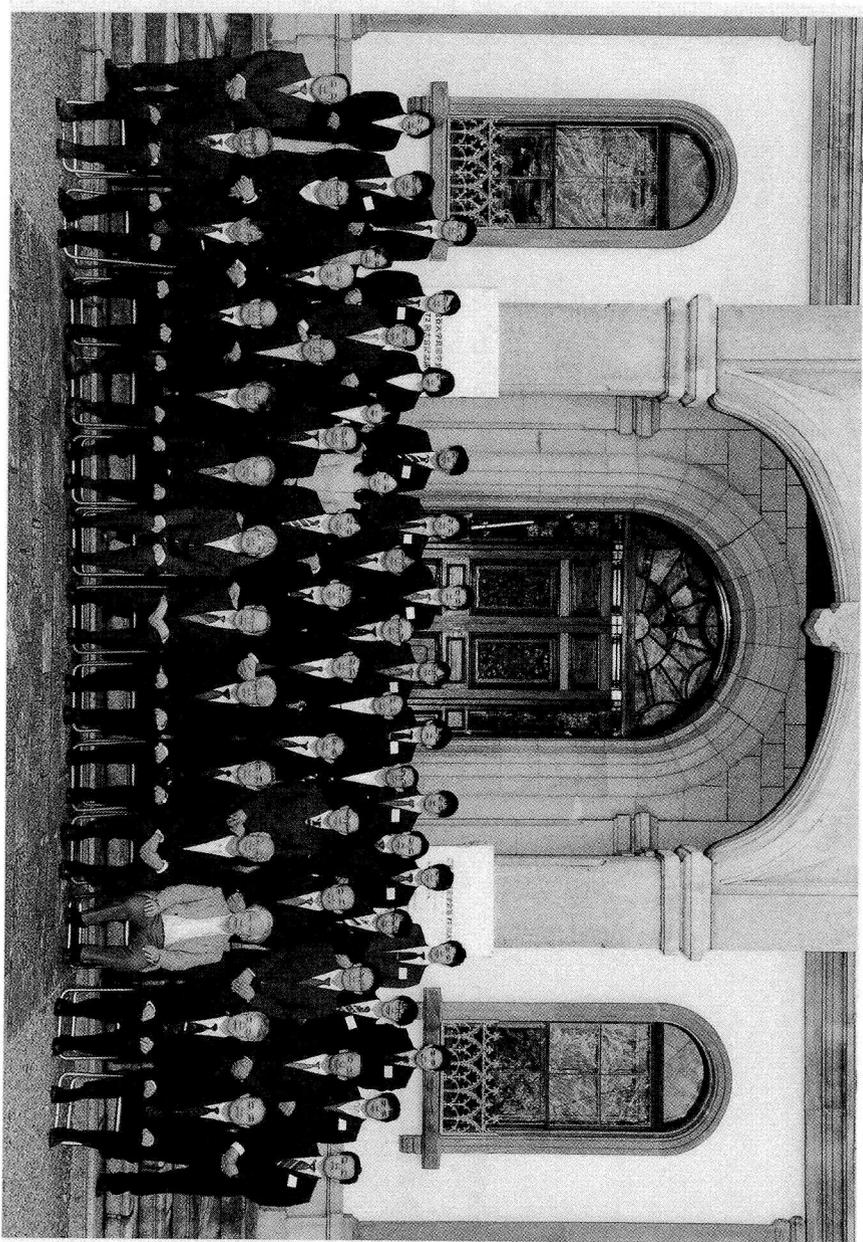
・十二月 卒業論文体験談資料を更新(二回目)

その他

・真宗学会ホームページのメール対応(随時)

・雑誌『真宗学』の販売(編集委員・庶務委員と連動随時)

(報告 都河陽介)



龍谷大学真宗学会 第72回大会

2018(平成30)年11月6日

於 大宮学会

龍谷大学真宗学会会計報告

a. 平成29年度決算

(単位：円)

収 入 の 部			
	決 算	予 算	差 額
①平成28年度繰越金	7,215,743	7,215,743	0
②学会費	3,718,000	6,039,000	-2,321,000
〔内訳〕			
・個人会員A（正会員）			
一般会員			
5,000×306=1,530,000			
LM1回生			
10,000×10=100,000			
LM2回生以上			
10,000×1=10,000			
LD1回生			
15,000×6=90,000			
LD2回生以上			
15,000×4=60,000			
PM1回生			
15,000×9=135,000			
PM2回生以上			
15,000×7=105,000			
・個人会員B（学生会員）			
L1回生			
16,000×79=1,264,000			
L2回生以上			
16,000×26=416,000			
L3・L4回生（編転入）			
8,000×1=8,000			
③学会誌販売・寄付等	13,000	40,000	-27,000
④龍谷学会出版助成金	300,000	300,000	0
⑤龍谷学会講演助成金	100,000	100,000	0
⑥利息	59	257	-198
計	11,346,802	13,695,000	-2,348,198

(単位：円)

支 出 の 部			
	29年度決算	29年度予算	差額
①編集委員会	2,381,660	2,445,000	-63,340
・真宗学（137・138号合併号出版・ 発送費） 2,346,316			
・真宗学編集費 5,344			
・学会講演編集費 30,000			
②研究委員会	386,496	400,000	-13,504
・大会運営費 315,914			
1. 講師謝礼（100,000）			
2. 事務諸経費（115,914）			
3. アルバイト代（100,000）			
・深草例会費 30,000			
・卒論指導関連経費 8,100			
・大会案内状印刷・発送費 32,482			
③親睦委員会	469,829	494,000	-24,171
・教育補助費（大学院） 194,000			
・学会研修補助費 275,829			
④庶務委員会	338,716	360,000	-21,284
・通信事務費 12,951			
・納入依頼関係 57,626			
・アルバイト代 60,000			
・合同研究室運営費 49,365			
・インターネット管理費 158,774			
⑤反省会費	100,000	100,000	0
⑥予備費	281,430	300,000	-18,570
⑦次年度繰越金	7,388,671	9,596,000	-2,207,329
計	11,346,802	13,695,000	-2,348,198

b. 学会事業基金決算

(単位：円)

収 入 の 部		
①	平成28年度繰越金	3,229,978
②	利息	574
	計	3,230,552

以上の平成29年度決算報告について、相違ありません。

平成30年 4月 7日

庶 務 龍溪 章雄 打本 弘祐

井上 順祐 桑谷 観慧

以上の平成29年度決算報告について、監査の結果、相違ありません。

平成30年 5月 1日

会計監査 緒方 義英 佐々木隆晃

a. 平成30年度予算案

(単位：円)

収 入 の 部			
	30年度予算	29年度予算	差額
①平成29年度繰越金	7,388,671	7,215,743	172,928
②学会費	6,627,000	6,039,000	588,000
〔内訳〕			
・個人会員A（正会員）			
一般会員			
$5,000 \times 330 = 1,650,000$			
LM1回生			
$10,000 \times 16 = 160,000$			
LM2回生以上			
$10,000 \times 7 = 70,000$			
LD1回生			
$15,000 \times 5 = 75,000$			
LD2回生以上			
$15,000 \times 2 = 30,000$			
PM1回生			
$15,000 \times 11 = 165,000$			
PM2回生以上			
$15,000 \times 3 = 45,000$			
・個人会員B（学生会員）			
L1回生			
$16,000 \times 168 = 2,688,000$			
L2回生以上			
$16,000 \times 107 = 1,712,000$			
編転入L3回生以上			
$8,000 \times 4 = 32,000$			
③学会誌販売・寄付等	40,000	40,000	0
④龍谷学会出版助成金	300,000	300,000	0
⑤龍谷学会講演助成金	100,000	100,000	0
⑥利息	329	257	72
計	14,456,000	13,695,000	761,000

(単位：円)

支 出 の 部			
	30年度予算	29年度予算	差額
①編集委員会	1,845,000	2,445,000	-600,000
・真宗学(第139,140号出版・ 発送費) 1,800,000			
・真宗学編集費 15,000			
・学会講演編集費 30,000			
②研究委員会	440,000	400,000	40,000
・大会運営費 340,000			
1. 講師謝礼・交通費(120,000)			
2. 事務諸経費(120,000)			
3. アルバイト代(100,000)			
・深草例会費 30,000			
・卒論指導関連経費 10,000			
・大会案内状印刷・発送費 60,000			
③親睦委員会	500,000	494,000	6,000
・教育補助費(大学院) 180,000			
・学会研修補助費 300,000			
・通信事務費 20,000			
④庶務委員会	730,000	360,000	370,000
・通信事務費 30,000			
・納入依頼関係 60,000			
・アルバイト代 80,000			
・合同研究室運営費 60,000			
・インターネット管理費 500,000			
⑤議長団事務諸経費	30,000	0	30,000
⑥反省会費	100,000	100,000	0
⑦予備費	600,000	300,000	300,000
⑧次年度繰越金	10,211,000	9,596,000	615,000
計	14,456,000	13,695,000	761,000

龍谷大学真宗学会会則

第一条（名称及び事務所） 本会は龍谷大学真宗学会（Research Association of Shin Buddhism）と称し、事務所を龍谷大学真宗学研究室におく。

第二条（目的） 本会は真宗学の研究教育の発展及び会員相互の親睦をはかるをもって目的とする。

第三条（事業） 本会は前条の目的を達成するために下の事業を行う。

一、学術大会
二、機関誌「真宗学」(Journal of Studies in Shin Buddhism) の発行

三、その他必要な事業

第四条（会員） 本会は下記の会員で組織する。

一、名誉会員 本会に功績のあった人の中から、理事会がこれを推薦し、総会で承認する。

二、個人会員A（普通会员員） 龍谷大学真宗学担当の専任教員、文学研究科真宗学専攻並びに実践真宗学研究科実践真宗学専攻在籍の大学院生、及び本会の主旨に賛同するもの。

三、個人会員B（学生会員） 龍谷大学文学部の真宗学専攻の学生。

四、個人会員C（団体会員） 真宗研究を主目的とする大学、短期大学及びそれに準ずる学校、学術団体並びに本会の主旨に賛同する団体。

すべての会員は第三条に定める事業に参加し、本会の刊行物の配布を受けることができる。また、普通会员員のうち大学院修士課程修了以上の学歴、もしくは同等の学識を有する研究者は、学術大会及び機関誌においてその研究を発表することができる。なお、研究発表・論文投稿

に關しては、別にこれを定める。

第五条（役員） 本会には下記の役員をおく。

一、会長 一名 理事の中から互選し、本会を代表して会務を統理する

二、副会長 一名 理事の中から会長が指名する。副会長は会長不在の時、会長の職務を代行する。

三、理事 若干名 評議員の中から互選する。理事は理事会を組織し、会務を処理する。

四、評議員 若干名 会員の中から、総会において選出する。評議員は評議員会を組織し、特に重要な会務を審議する。

五、監査委員 二名 会長が理事、評議員の中から委嘱し、会計の監査を行う。

六、編集委員 若干名 会長が理事、評議員の中から委嘱し、機関誌「真宗学」の編集を行う。

役員

第六條（顧問・参与） 役員の任期は、二ケ年とする。但し重任を妨げたいことができる。 本会に顧問及び参与をおくこと

第七條（運営） 本会の事務的な運営のために、運営協議会を設ける。運営協議会の規定は別に定める。

第八條（総会） 会員の三分の一以上の要望及び理事会の召集により総会を開催することができる。審議決定は出席者の過半数以上の承認を要する。

第九條（経費） 本会の経費は会費及び寄付金、その他の収入による。

第十條（会費） 会員は本会維持のため個人会員Aは年額五千円その他は年額四千円の会費を納めるものとする。

（但し一九九九年（平成十一年）度より）

第十一條（会則変更） 本会則の変更は、評議員の議を

第十二条(年度) 経たのち、総会の決議を得なければならぬ。本会の年度は毎年四月一日に始まり、翌三月三十一日に終わる。

附則① 本会則は一九八八年(昭和六十二年)十一月二十二日の大会において改正承認されたものである。

② 会費の改定は一九八九年(平成元年)十一月二十一日の大会において改正承認されたものである。

③ 本会則は二〇〇八年(平成二十年)十一月十一日の大会において改正承認され、二〇〇九年(平成二十一年)四月一日から施行される。ただし、第五條(役員)二項の副会長については、二〇〇八年(平成二十年)十一月十一日の大会終了をもって適用される。

龍谷大学真宗学会運営協議会規定

第一条 (名称) 本会は龍谷大学真宗学会運営協議会と称する。

第二条 (目的) 本会は龍谷大学真宗学会々則に基づき学会の運営に関する諸事項を審議・決定し、実務を担当する。

第三条 (構成員) 本会の構成員は下記の通りとする。
(イ) 真宗学担当の専任教員
(ロ) 文学研究科真宗学専攻・実践真宗学研究科実践真宗学専攻の各演習より選出された幹事
(ハ) 文学部真宗学科の各演習より選出された幹事
(ニ) 議長より選出された幹事

第四条

第一項 本会には審議・決定機関としての協議会と執行機関としての委員会を設ける。

第二項 協議会は原則として、前条の全構成員によつて組織する。但し必要に応じて左のごとき分科協議会を設けることができる。

(イ) 大学院協議会
(ロ) 学部協議会
第三項 分科協議会の決定は協議会の承認を得なければ執行することができない。

第四項 委員会は研究・親睦・編集・庶務の四部門とし、それぞれ専任教員・大学院幹事・学部幹事各一名以上をもつて組織する。

第五項 各委員会の委員長は大学院幹事より議長が下記の通り任命する。
(イ) 研究委員長 一名
(ロ) 親睦委員長 一名

第五条

(イ) 編集委員長 一名
(ロ) 庶務委員長 一名
(ハ) 委員会の業務内容
(ニ) 研究委員会……大会・例会等主として研究に
関する事項

(イ) 親睦委員会……旅行、歓送迎会等主として親睦に関する事項
(ロ) 編集委員会……学会誌の編集等主として編集に関する事項

(ハ) 庶務委員会……会計及び庶務全般に関する事項

第六条 (議長・副議長・書記)
第一項 協議会の議長一名・副議長二名以内は幹事の互選とする。

第二項 協議会の書記三名以内は議長より任命される。

第七条 (経費) 本会の経費は真宗学会が負担する。
第八条 (年度) 本会の年度は真宗学会の年度に準ずる。
(規定の変更) 本規定は協議会が発議し、真宗学会大会の決議により変更することができる。

第九条 本規定は一九九二年(平成四年)十一月二十四日の大会において改正承認されたものである。

付則 ① 本規定は二〇〇八年(平成二十年)十一月十一日の大会において改正承認され、二〇〇九年(平成二十一年)四月一日から施行される。

② 本規定は二〇〇八年(平成二十年)十一月十一日の大会において改正承認され、二〇〇九年(平成二十一年)四月一日から施行される。

編輯後記

『真宗学』第一三九号をお届けいたします。今号には、龍谷大学名誉教授の武田龍精先生の講演録をはじめ、龍谷大学国際学部教授の嵩満也先生、同文学部教授の殿内恒先生、同法学部教授の井上善幸先生、同文学部講師の打本弘祐先生の論文に加え、非常勤講師の渡邊了生先生ならびに大学院文学研究科博士後期課程の逸見世自在さん、入江染さんの投稿論文の合計七本の論文を掲載することができました。

武田先生は、ご自身の被爆体験にも触れられつつ、核兵器の廃絶なくして真実の平和がありえないことを、宗教学や仏教学・真宗学の広範な視点から根拠付けて論じて下さいました。嵩先生は、親鸞教義においては念仏と信心とは不可分なものであり、他力の信心や念仏はいずれも阿弥陀仏の誓願の顕現したものと捉えられていることを指摘しておられます。殿内先生は、親鸞撰述とされる『弥陀如来名号徳』について、そこには他の親鸞撰述に比して特異な文言や解釈がみられることを丁寧に検証され、『弥陀如来名号徳』の従来の位置付けについて再検討を試みておられます。井上先生は、親鸞が第十七願を掲げて真実行を示したことについて、背師自立にあたるものではないということを、明恵の論難に対す

る応答という視点から明らかにしております。打本先生は、親鸞の幼少期から成人期に至るまでの複数の対象喪失の経験を指摘し、親鸞がそれらを経験しながら弘誓の仏地に立つて人生を歩んだ姿とグリーフケアを行う真宗者のあり方との接点について論じておられます。渡邊了生先生は、親鸞思想における願生往生の主体について、有無を離れた「五蘊仮和合の肉体的精神的な唯今の私存在全体」とする説が、最も穏当かつ、教理史的にも義が通るものであると指摘しております。逸見さんは、観経隠顕釈および『未燈鈔』第一通における聖道門と還相の菩薩との関係について先行研究を整理しつつ、聖道門の教の説者を還相の菩薩であると解釈すべきことを論じています。入江さんは、「実践」研究における「主体」について、ジェンダー研究を手がかりに、権力構造による抑圧・周辺化の問題を指摘し、「実践」を担う主体を尊重する研究がいかにしてなされ得るのかを提示しています。

今号も多くの論文をご寄稿いただき、大変充実した内容として発刊することができました。ご講演を賜りました武田龍精先生をはじめ、執筆者の皆様に厚く御礼申し上げます。(能美)

平成三十一年三月十日印刷
平成三十一年三月十五日発行

編集者 真宗学会
編集委員

転載) 真宗学会長
龍溪章雄

印刷所 (株) 図書同朋舎

〒102-8204
京都市下京区七条大宮

発行所 龍谷大学真宗学会
電話 (代) 075-333-3323
振替 01260168746番

取次店 永田文昌堂
振替 0126014936番

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

(平成29年4月～平成30年3月)

<仏教思想・文献>

飯島明子	「タム文字写本文化圏」におけるクーバー・スィーウィチャイについての覚書	パ ー リ 学 仏 教 文 化 学	31
林 隆 嗣	上座部大寺派とアバヤギリ派における頭陀支の解釈——『『解脱道論』の所属部派に関連して——	パ ー リ 学 仏 教 文 化 学	31
岡本健資	Dhammapada-Atthakathaにおける「三道宝階降下」について	パ ー リ 学 仏 教 文 化 学	31
井上ウィマラ	律蔵における看病実践から医療者の燃え尽き防止プログラム G.R.A.C.E.へ	パ ー リ 学 仏 教 文 化 学	31
山口周子	後宮の聖女と悪女——Udena王妃たちの物語が説く教え——	パ ー リ 学 仏 教 文 化 学	31
張 風 雷, 松森秀幸[訳]	中国における南北朝仏教研究の新進展	東 ア ジ ア 仏 教 研 究	15
李 四 龍, 弓場苗生子[訳]	南北朝期における『法華経』註釈様式の変遷	東 ア ジ ア 仏 教 研 究	15
李 子 捷	転依(parivrtti)と真如(tathata)の一考察：南北朝期の中国仏教を中心に	東 ア ジ ア 仏 教 研 究	15
ウィックストローム ダニエル	法蔵の教相判釈の展開と三転法輪説	東 ア ジ ア 仏 教 研 究	15
周 広 栄, 柳 幹康[訳]	般若経典における梵語声字の形態と機能に関する試論	東 ア ジ ア 仏 教 研 究	16
張 凱, 松森秀幸[訳]	杏雨書屋蔵羽271『義記』の三宝思想	東 ア ジ ア 仏 教 研 究	16
趙 允 卿, 佐藤 厚[訳]	中国仏教における相即の形成と変容	東 ア ジ ア 仏 教 研 究	16

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

董 群, 大澤邦由[訳]	吉蔵『金剛般若疏』研究	東 仏	ア 教	ジ 研	ア 究	16
喻 長海, 松森秀幸[訳]	「初章」と三論宗思想の基盤	東 仏	ア 教	ジ 研	ア 究	16
李 子捷	玄奘帰朝以前の中国仏教における種姓(性)説について：『仁王経』・『瓔珞本業経』を中心に	東 仏	ア 教	ジ 研	ア 究	16
張 文良, 中西俊英[訳]	中国華嚴教学における般若系經典	東 仏	ア 教	ジ 研	ア 究	16
通 然	日本所伝『破相論』(観心論)の諸本について：新出金沢文庫残欠本を中心に	東 仏	ア 教	ジ 研	ア 究	16
関 悠倫	『釈摩訶衍論』における仏身観の一考察：四種身説の可能性	東 仏	ア 教	ジ 研	ア 究	16
織 田 顕祐	書評・紹介 馬場久幸著『日韓交流と高麗版大蔵経』	仏教学	セミナー			105
楠 宏生	Tattvartha における得・非得の翻訳研究(3)	佛教学	セミナー			105
松 下 俊英	大谷大学図書館所蔵『中辺分別論』チベット撰述文献の試訳研究：帰敬偈論の綱要偈	佛教学	セミナー			105
森 山 結希	曇無讖訳『涅槃経』における「秘密蔵」	佛教学	セミナー			106
福 田 洋一	書評・紹介 カンカル・ツルティム・ケサン著『学者の王のお言葉の正しき伝統：一千万の智者の源という叢書：カンカル・ツルティム・ケサン氏の全集(mkhas dbang gsung gi rgyun bzang blo gsal bye ba'i 'byung gnas zhes bya ba'i dpe bstar, khang dkar tshul khriims skal bzang mchog gi gsung 'bum)』全十巻	佛教学	セミナー			106
山 本 和彦	書評・紹介 澤井義次著『シャンカラ派の思想と信仰』	佛教学	セミナー			106
堀 田 和義	宰相チャーナキヤの格言詩：Cana-kyanitidarpana 和訳(1)	佛教学	セミナー			106
大 島 幸代	高僧と護法神：僧伝史料に伝えられた護法神像の造立	仏教史学	研究			60(1)

筒井大祐	石清水八幡宮本『八幡宮寺巡拝記』考	仏教大学総合 研究所紀要	25
XIAO Yue (肖越)	Hearing the Names of the Buddha and the Bodhisattvas in the Pure Land Sutras	仏教大学総合 研究所紀要	25
筒井大祐	翻刻 石清水八幡宮本『八幡宮寺巡 拝記』前	佛教学大学院紀要 文学研究科篇	46
山口希世美	『久能寺経』の制作年・制作動機に ついて	佛教学大学院紀要 文学研究科篇	46
星優也	『妙覚心地祭文』の宗教世界：冥 道・陰陽師・弘法大師	佛教学大学院紀要 文学研究科篇	46
金子秋斗	九条兼実の院近臣観：批判とその変 容	佛教学大学院紀要 文学研究科篇	46
安藤淑子	原始仏教における kama の考察	佛教学大学院紀要 文学研究科篇	46
田中裕成	有部系論書における四善根と信の関 係の由来	佛教学大学院紀要 文学研究科篇	46
村上勉	原始仏教に見られる在家者の実践	佛教学大学院紀要 文学研究科篇	46
相模泰造	西域出土の唐代の幡について	佛教学大学院紀要 文学研究科篇	46
清田政秋	契沖及び安然の悉曇学と本居宣長の 言語観	佛教学大学院紀要 文学研究科篇	46
久保田實	良源の山王信仰と神前論義の形成	佛教学大学院紀要 文学研究科篇	46
石丸禎	『空性法親王四国霊場御巡行記』に ついて：先行研究の検討と新発見の 類本史料の射程	佛教学大学院紀要 文学研究科篇	46
杉山裕俊	開宝蔵について：『開宝遺珍』所収の 『御製秘蔵詮』を中心に	仏教文化学会 紀要	26
倉松崇忠	『俱舎論記』における不染無知、定障、 解脱障	仏教文化学会 紀要	26
鈴木雄太	聖憲の機根観：『大疏百条第三重』を 中心として	仏教文化学会 紀要	26
関悠倫	『釈摩訶衍論』における密教的なも の：架空經典を中心に	仏教文化学会 紀要	26

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

平 間 尚 子	『善導寺本』に描かれた高野山伝承：『説経かるかや』を手がかりに	仏教文化学会紀要	26
森 覚	仏教絵本『こどものくに別冊 おしゃかさま』にみるブツダのイメージ	仏教文化学会紀要	26
相 馬 一 意	《分かる》ということ	龍 谷 教 学	53
青 山 法 城	「無量」に関する試論	龍 谷 教 学	53
近藤真美, 都築晶子, 濱田正美, 渡邊 久, 橘堂見一, 赤羽奈津子, 宮本亮一, 川見 健人	大宮図書館蔵イスラーム関係資料の研究：イスラーム関係図書目録(稿)	龍谷大学仏教文化研究所紀要	56
『一遍上人縁起絵』現代語訳研究会	『一遍上人縁起絵』現代語訳 第四・五・六巻	時宗教学年報	46
那 須 英 勝	『私聚百因縁集』の「仏法王法縁起由来」に見える中世日本仏教僧の重層的な世界観(川添泰信教授定年退職記念特集号：浄土仏教と親鸞教義)	真 宗 学	137・138
玉 木 興 慈	釈尊と親鸞の伝道：浄土三部経の序分に見る釈尊の伝道教化(川添泰信教授定年退職記念特集号：浄土仏教と親鸞教義)	真 宗 学	137・138
佐々木 大 悟	三毒五悪段にみられる奪算説について(川添泰信教授定年退職記念特集号：浄土仏教と親鸞教義)	真 宗 学	137・138
早 島 理	インド大乘仏教瑜伽行唯識学派におけるいのち観(川添泰信教授定年退職記念特集号：浄土仏教と親鸞教義)	真 宗 学	137・138
瀧 弘 信	「文明版」系『正像末和讃』祖本の成立に関する一考察	大 谷 学 報	96(2)
松 浦 典 弘	五臺山佛光寺の唐代の経幢	大 谷 学 報	97(1)
宮 崎 展 昌[訳]	蔵訳『阿闍世王経』第四章訳注研究	大 谷 学 報	97(2)
Rhodes Robert F.	日本における仏教と国家の関係：最澄と空海の思想に関連して	大 谷 学 報	97(2)
安 村 好 弘	オーケストラ編成による仏教音楽の製作《祝典序曲》	研究紀要(京都女子大学宗教・文化研究所)	31
能 仁 正 顕	大乘仏教の展開と仏説論	研究紀要(京都女子大学宗教・文化研究所)	31

野 口 実	京都と鎌倉	研究紀要（京都女子大 学宗教・文化研究所）	31
清水谷 正 尊	『西方指南抄』の成立過程と真仏の筆跡	真 宗 研 究	62
常磐井 慈 裕	明恵とその時代	高 田 学 報	106
新 光 晴	口絵解説 『観阿弥陀経集註(存覚、書写本)』について	高 田 学 報	106
岡 野 潔[訳]	ハリバッタ・ジャータカマーラー研究(1)第一～第五話和訳	哲学年報（九州大学大 学院人文科学研究院）	77
片 岡 啓[訳]	ジャンタの錯誤論：Nyayamanjari 和訳	哲学年報（九州大学大 学院人文科学研究院）	77
金 玄 耿	平安貴族社会と「貴種」	史 林	100(4)
李 咳 鎮	十七世紀後半の日朝関係と対馬藩：権現堂送使の新設交渉を中心に	史 林	100(4)
田 中 秀 樹	南宋における四書疏釈書の登場とその要因：師説の継承と出版文化（特集学びのネットワーク）	史 林	101(1)
佐久間 秀 範	この一冊! 『実習サンスクリット文法：荻原雲来『実習梵語学』新訂版』サンスクリット語を楽しく学べる文法書 [吹田隆道編著]	春 秋	597
田 口 ランディ	「声」連作掌篇(8)春	春 秋	597
吉 村 昇 洋	精進料理のこころ(7)仏道修行として食べる	春 秋	597
若麻績 敏 隆	極楽の原風景(1)人は死んだらどこへ行くのか	春 秋	597
大 久 保 賢	演奏、このとらえがたきもの：西洋芸術音楽の演奏をめぐるアフォーリズム	春 秋	596
吉 村 昇 洋	精進料理のこころ(6)典座の職と仏道	春 秋	596
定 方 晟	ドストエフスキーと仏教	春 秋	596
田 口 ランディ	「声」連作掌篇(5)大天使ミカエルさま	春 秋	593
吉 村 昇 洋	精進料理のこころ(3)絆をもって道心となす	春 秋	593
立 川 武 蔵	ブッディスト・セオロジーの試み(5)現代の仏教的世界観	春 秋	593

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

田 口 ランディ	「声」連作掌篇(4)失楽園	春	秋	592
吉 村 昇 洋	精進料理のこころ(2)三徳六味を備えた料理	春	秋	592
露 の 団 姫	お釈迦さまが好き!	春	秋	591
田 口 ランディ	「声」連作掌篇(3)波の音	春	秋	591
吉 村 昇 洋	精進料理のこころ(1)仏道修行としての調理	春	秋	591
藤 田 一 照	瓢箪から駒が出た!?:『青虫は一度溶けて蝶になる』の誕生	春	秋	591
立 川 武 蔵	ブッディスト・セオロジーの試み(4)「開かれた」世界と自己否定	春	秋	590
田 口 ランディ	「声」連作掌篇(2)庭の声	春	秋	590
奥 野 光 賢	この一冊!『『摩訶止観』を読む』智顛から道元・瑩山への視点 [池田魯參著]	春	秋	589
塩 山 千 仞	モーツァルトの青春 断想(8)	春	秋	589
田 口 ランディ	「声」連作掌篇(1)彼岸の声	春	秋	589
田 中 智 誠	黄檗宗に関する内外の最新研究状況 (特集 黄檗宗の歴史と文化)	春	秋	588
錦 織 亮 介	渡来黄檗僧と絵画:肖像画を中心に (特集 黄檗宗の歴史と文化)	春	秋	588
大 槻 幹 郎	隠元禅師語録について (特集 黄檗宗の歴史と文化)	春	秋	588
竹 貫 元 勝	黄檗宗の歴史 (特集 黄檗宗の歴史と文化)	春	秋	588
木 村 得 玄	黄檗宗あれこれ (特集 黄檗宗の歴史と文化)	春	秋	588
立 川 武 蔵	ブッディスト・セオロジーの試み(2)自分について	春	秋	587
塩 山 千 仞	モーツァルトの青春 断想(7)	春	秋	587
上 田 泰 史	いま、練習曲を見つめなおす:「チェルニー30番」とは何だったのか	春	秋	587
青 原 令 知	入滅、分裂、結集、アビダルマ: Sangiti-sutra の成立背景	佛 教 学 研 究		74

李 子 捷	嘉祥吉蔵における真如と仏性について：『宝性論』・『仏性論』の依用を手掛かりに	佛 教 學 研 究	74
Vo Thi Van Anh	On the suddhadhyasaya in the Yogacara School	佛 教 學 研 究	74
岡 本 礼 子	光定の戒律思想の研究	佛 教 學 研 究	74
西 山 良 慶	論義「転換本質」の研究	佛 教 學 研 究	74
Wickstrom Daniel Andrew	法蔵と四分律宗	佛 教 學 研 究	74
小野嶋 祥 雄	中国仏教における如来常住の実感	佛 教 學 研 究	74
村 上 明 也	宝地房証真の『涅槃疏鈔』について	佛 教 學 研 究	74
太 田 蒨 子	チャンドラキールティの菩薩階梯における所知と無明の習気について	真 宗 文 化	27
古 川 洋 平	教導者积尊と魔	真 宗 文 化	27
藤 村 潔	仏性論争における一闡提成仏の基礎的研究：唐初期における靈潤・神泰・義栄の争点をめぐって	真 宗 文 化	27
山 崎 真 純	『摧邪輪』における善導像——引用文を手がかりとして——	山 口 真 宗 教 学	28
箕 浦 暁 雄	大谷大学図書館所蔵『大乘五蘊論問書』(2)	大 谷 学 報	97(2)
朝魯孟格日勒	清代外モンゴルのセチェン・ハン部における盟界面定の経緯：牧地紛争に関する公文書を手掛かりに	史 林	100(3)
久 保 奈 緒 子	三階蔵に見る独立柱の役割に関する考察	人 間 文 化	43
木 村 文 輝	ラーマーヌジャの瞑想論(4)『シュリー・バーシュヤ』III.3.20～26読解	人 間 文 化	32
引田 弘道[訳], 大羽 恵美[訳]	『ボーディサットヴァ・アヴァダーナ・カルパラター』第37章和訳	人 間 文 化	32
安 藤 充	古ジャワ金言集 Slokantara 訳注研究(3)	人 間 文 化	32
國 弘 暁 子	衣と性の規範に抗う「異装」：インド、グジャラート州におけるヒジュラとしての生き方について（歴史のなかの異性装）—(アジア)	ア ジ ア 遊 学	210

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

服 藤 早 苗	序論 歴史のなかの異性装 (歴史のなかの異性装)	ア ジ ア 遊 学	210
鈴 木 彰	文化拠点としての坊津一乗院：涅槃図と仏舍利をめぐる語りの位相 (ひと・もの・知の往来：シルクロードの文化学)―(仏教伝来とその展開)	ア ジ ア 遊 学	208
本 井 牧 子	海を渡る仏：『釈迦堂縁起』と『真如堂縁起』との共鳴 (ひと・もの・知の往来：シルクロードの文化学)―(仏教伝来とその展開)	ア ジ ア 遊 学	208
荒 木 浩	投企される〈和国性〉：『日本往生極楽記』改稿と和歌陀羅尼をめぐる (ひと・もの・知の往来：シルクロードの文化学)―(仏教伝来とその展開)	ア ジ ア 遊 学	208
李 銘 敬	遼代高僧非濁の行状に関する資料考：『大蔵教語仏菩薩名号集序』について (ひと・もの・知の往来：シルクロードの文化学)―(仏教伝来とその展開)	ア ジ ア 遊 学	208
近 本 謙 介	玄奘三蔵の記憶：『玄奘三蔵絵』と三宝伝来との相関 (ひと・もの・知の往来：シルクロードの文化学)―(仏教伝来とその展開)	ア ジ ア 遊 学	208
高 陽	『大唐西域記』と金沢文庫保管の『西域伝堪文』 (ひと・もの・知の往来：シルクロードの文化学)―(仏教伝来とその展開)	ア ジ ア 遊 学	208
内 田 澤 子	長谷寺「銅板法華説相図」享受の様相 (ひと・もの・知の往来：シルクロードの文化学)―(仏教伝来とその展開)	ア ジ ア 遊 学	208
川 口 健 一	ベトナムの女性と仏教 (東アジアの女性と仏教と文学)―(東アジアへの視界)	ア ジ ア 遊 学	207
金 英 順	朝鮮時代の女性と仏教：比丘尼礼順の仏法修行を中心に (東アジアの女性と仏教と文学)―(東アジアへの視界)	ア ジ ア 遊 学	207
趙 恩 馥	朝鮮時代における仏伝とハングル小説：耶輸陀羅の物語 (東アジアの女性と仏教と文学)―(東アジアへの視界)	ア ジ ア 遊 学	207

金	鍾 徳	朝鮮の宮廷女流文学における宗教思想 (東アジアの女性と仏教と文学)―(東 アジアへの視界)	ア ジ ア 遊 学	207
陳	燕	宋代の女性詩人と仏教：朱淑真を例と して (東アジアの女性と仏教と文学) ―(東アジアへの視界)	ア ジ ア 遊 学	207
鈴 木	彰	『八幡愚童訓』の一側面：神功皇后像 と故事としての仏伝 (東アジアの女性 と仏教と文学)―(『法華経』と女人の 形象)	ア ジ ア 遊 学	207
阿 部	龍 一	「平家納経」と女性の仏教実践 (東ア ジアの女性と仏教と文学)―(『法華経』 と女人の形象)	ア ジ ア 遊 学	207
馬	駿	鎮源撰『本朝法華験記』独自の女性 像：表現の出典と発想の和化を手掛か りに (東アジアの女性と仏教と文学) ―(『法華経』と女人の形象)	ア ジ ア 遊 学	207
李	銘 敬	『冥報記』における女性『法華経』信 仰説話の伝承考 (東アジアの女性と仏 教と文学)―(『法華経』と女人の形象)	ア ジ ア 遊 学	207
邱	春 泉	『とはずがたり』における後深草院二 条の信仰心：西行の受容を中心に (東 アジアの女性と仏教と文学)―(女人の 道心と修行)	ア ジ ア 遊 学	207
中 村	文	暗喩としての〈仏教〉：『更級日記』の 〈物詣〉 (東アジアの女性と仏教と文 学)―(女人の道心と修行)	ア ジ ア 遊 学	207
平 野	多 恵	釈教歌と女性 (東アジアの女性と仏教 と文学)―(女人の道心と修行)	ア ジ ア 遊 学	207
李	愛 淑	手紙を書く女たち：儒教と仏教を媒介 に (東アジアの女性と仏教と文学)― (女人の道心と修行)	ア ジ ア 遊 学	207
張	龍 妹	紫式部の道心について (東アジアの女 性と仏教と文学)―(女人の道心と修 行)	ア ジ ア 遊 学	207
何	衛 紅	女性仏道修行者の出家と焼身：東アジ ア仏教最初期の一考察 (東アジアの女 性と仏教と文学)―(女人の道心と修 行)	ア ジ ア 遊 学	207

高	陽	后と聖人：女犯の顛末（東アジアの女性と仏教と文学）－（女性と仏教の文学世界）	ア ジ ア 遊 学	207
丁	莉	女性たちの転生と「謫生(たくしゅう)」：説話と物語のありよう（東アジアの女性と仏教と文学）－（女性と仏教の文学世界）	ア ジ ア 遊 学	207
小	峯 和 明	〈仏伝文学〉と女人：物語の原点として（東アジアの女性と仏教と文学）－（女性と仏教の文学世界）	ア ジ ア 遊 学	207
勝	浦 令 子	『参天台五臺山記』にみる「女性と仏教」（東アジアの女性と仏教と文学）－（女性と仏教の文学世界）	ア ジ ア 遊 学	207
石	井 公 成	女性が男性を論破する大乘経典：日本の女性文学への影響（東アジアの女性と仏教と文学）－（女性と仏教の文学世界）	ア ジ ア 遊 学	207
今	西 祐一郎	女文字の仏教（東アジアの女性と仏教と文学）－（女性と仏教の文学世界）	ア ジ ア 遊 学	207
張	龍 妹	序文：「東アジアの女性と仏教と文学」に寄せて（東アジアの女性と仏教と文学）	ア ジ ア 遊 学	207
小	峯 和 明	天界の塔と空飛ぶ菩提樹：〈仏伝文学〉と〈天竺神話〉（ひと・もの・知の往来：シルクロードの文化学）－（仏教往来とその展開）	ア ジ ア 遊 学	208
井	上 章 一	聖徳太子のユーラシア（ひと・もの・知の往来：シルクロードの文化学）	ア ジ ア 遊 学	208
張	龍 妹	『聖母行実』における現報的要素：『聖母の栄耀』との比較から（ひと・もの・知の往来：シルクロードの文化学）－（西域のひびき）	ア ジ ア 遊 学	208
ハルミルザエヴァ	サイダ	『アルポミシュ』における仏教説話の痕跡（ひと・もの・知の往来：シルクロードの文化学）－（西域のひびき）	ア ジ ア 遊 学	208
ソディコフ	コシムジョン	中世初期のテュルク人の仏教：典籍と言語文化の様相（ひと・もの・知の往来：シルクロードの文化学）－（西域のひびき）	ア ジ ア 遊 学	208

劉 暁 峰	端午の布猴 (ひと・もの・知の往来：シルクロードの文化学)―(西域のひびき)	ア ジ ア 遊 学	208
藤 岡 穰	曹仲達様式の継承：鎌倉時代の仏像にみる宋風の源流 (ひと・もの・知の往来：シルクロードの文化学)―(西域のひびき)	ア ジ ア 遊 学	208
河 野 貴美子	敦煌出土『新集文詞九経抄』と古代日本の金言成句集 (ひと・もの・知の往来：シルクロードの文化学)―(西域のひびき)	ア ジ ア 遊 学	208
後 藤 昭 雄	小野篁の「輪台」詠 (ひと・もの・知の往来：シルクロードの文化学)―(西域のひびき)	ア ジ ア 遊 学	208
近 本 謙 介	序文 (ひと・もの・知の往来：シルクロードの文化学)	ア ジ ア 遊 学	208
TAKEZAKI Ryutaro	The Heart and the Identification of the Hymns as the Soma in the Rgveda	印 仏 研	66
TAKAHASHI Kenji	harsasthanasahasrani bhayasthanasatani ca Hundreds and Thousands of Occasions for Joy and Fear : A Study of Stock Phrases in the Indian Great Epic Mahabharata	印 仏 研	66
MAK Bill. M.	Tithikarmaguna in Gargiyajyotisa: Tithi Worship According to a Number of Early Sources	印 仏 研	66
KAWAMURA Yuto	Candragomin's Theory of karman	印 仏 研	66
WATANABE Masayoshi	Theory of Three Times in Nyaya: In Connection with Madhyamika and Sarvastivada	印 仏 研	66
ISHIMURA Suguru	Kumarila and Santaraksita on samvada: The Agreement with a Cognition and the Agreement with a Real Entity	印 仏 研	66
SAITO Akane	On the Structure of the Tarkakanda in the Brahmasiddhi	印 仏 研	66

MANABE Tomohiro	On the Significance of the Bhagavatapurana in Madhusudana Sarasvati's Advaita Doctrine	印	仏	研	66
MISAWA Hiroe	The Expression of Hasya and Karuna Rasa in an Indian Miniature Painting of Gitagovinda 1.32	印	仏	研	66
BARUA Adity	Patriarchal Society and Women's Roles in Bangladesh: Grameen Bank on Social Change	印	仏	研	66
CHAWARI THREONG LITH Bunchird	Variant Readings in the Subhasutta of the Dighanikaya: Based on Palm-leaf Manuscripts from Five Traditions	印	仏	研	66
SRISETHH AWORAKUL Suchada	A Problem on the Origin of the Pali Canon of Khom Script Manuscripts: Found in Thailand and Cambodia	印	仏	研	66
INOUE Ayase	Salt in the Vinayas	印	仏	研	66
WANG Lina	The Research of Buddha's Biographies Literature	印	仏	研	66
YAMASAKI Kazuho	On the Author of the Subhasitaratnakarandakakatha	印	仏	研	66
KASAMATSU Sunao	Inflections of da, pra-da, pra-yam and Their Suppletion in the Saddharmapundarika-sutra	印	仏	研	66
SUZUKI Takayasu	The Thesis and Antithesis of the Saddharmapundarika	印	仏	研	66
SHIMIZU Toshifumi	The View on the Three Pitakas of the Mahavihara School : Disappearance of the True Dhamma, Transcribed Texts, and Codex Worship	印	仏	研	66
ISHIDA Kazuhiro	The Venerable Person from the Western Region in the Abhidharma Mahavibhava Sastra	印	仏	研	66
KIMURA Seimin	Sixteen Kinds of Sunyata in the Prajnaparamitapindarthasamgraha and the Astasahasrika Prajnaparamita	印	仏	研	66

VO Thi Van Anh	The Relationship between the Yogacara School and the Dasabhumikasutra through the Term Samyaktvanyamavakranti	印	仏	研	66
HORIUCHI Toshio	On Interpretations of the anusmrti of the Three Jewels: *Buddhanusmrtivrtti, Vyakhyayukti, and Related Texts	印	仏	研	66
YOKOYAMA Takeshi	The Relationship between the Madhyamakapancaskandhaka and the Ratnavali: With a Focus on the Parallel Passages in the Definitions of the Defiled Elements	印	仏	研	66
YONEZAWA Yoshiyasu	The Dharanisvararajapariprccha Quoted in the Madhyamakavatarabhasya	印	仏	研	66
YOKOYAMA Akito	Prajnakaragupta's Theory of Sense-Perception (indriyapratyaksa): With a Focus on the Criticism of the Nyaya-Vaisesika School	印	仏	研	66
IJUIN Shiori	A Summary of the First Half of Anandagarbha's Vajrajvalodaya	印	仏	研	66
FUJII Akira	The Dwelling Place of Mahesvara in Indian Esoteric Buddhism: Focusing on Descriptions of ekalinga in the Bhutadamaratantra	印	仏	研	66
MOCHIZUKI Kaie	On the Works on the Ritual of Oblation Attributed to Dipamkarasrijnana	印	仏	研	66
ISHIDA Katsuyo	Phylogenetic Estimation Using Variants of Chapter Titles: The Case of the Xianyu jing in Tibetan	印	仏	研	66
SHI Guohuei	A Study of An Shigao's Translation Style: An Analysis of the Bazhengdao jing T112	印	仏	研	66
NEWHALL Thomas	Doctrinal Debate in Tang-dynasty Vinaya Commentaries: The Substance of the Precepts in the Works of Fali, Daoxuan, and Huaisu	印	仏	研	66

OTANI Yuka	The Controversy over the Principal Doctrine of the Nanshan Vinaya School in the Southern Song and Japan	印	仏	研	66
KAMEYAMA Takahiko	Chikotsu Daie's View on the Inherent Existence (honnu): An Analysis of Its Relationship with the Sangen menju	印	仏	研	66
阪本純子 (後藤)	ヴェーダ祭式 Upavasatha と 仏教 Uposatha 「布薩」：梗概	印	仏	研	66
伊澤敦子	頭部崇拜に関する一考察	印	仏	研	66
里見英一郎	RV X 102 「ムドガラの競争の歌」再考	印	仏	研	66
間口美代子	『ムンダカ・ウパニシャッド』のテキストについて	印	仏	研	66
川尻道哉	varna は「音素」なのか? : 言語認識における音の役割をめぐって	印	仏	研	66
岩崎陽一	詩的意味の美的知覚：新ニヤヤー学派 ジャガディーシャの暗示理論批判	印	仏	研	66
川尻洋平	『主宰神の再認識詳注』の伝承について	印	仏	研	66
堀田和義	地水火風は生きているか? : 「ジャイナ教=アニミズム」説の再検討	印	仏	研	66
清水晶子	ジャイナ教徒のゴートラの神と祭祀に関して：パンジャブの白衣派尊像崇拜派を例として	印	仏	研	66
名和隆乾	namarupassa avakkanti-について	印	仏	研	66
古川洋平	パーリ聖典中の srad-√ dha の意味について：Norman 説に注目して	印	仏	研	66
李慈郎	儵蘭遮(thullaccaya)について	印	仏	研	66
岩松浅夫	パトナ版『法句経』第247偈について	印	仏	研	66
藤本晃	Sati(念)と Sampajanna(正知)	印	仏	研	66
NARADA Labugama	スリランカのダンバデニヤの時代のシンハラ語文献に見られる菩薩	印	仏	研	66
木内英実	インドの昔話における「争いの方略」：ゲーム論的分析	印	仏	研	66

熊谷 誠 慈	北伝仏教における想蘊区分についての一考察：二想,三想,四想	印	仏	研	66
水野 和彦	有部の三宝観	印	仏	研	66
梶 哲也	説一切有部における煩惱群について：結・縛・随眠・随煩惱・纏	印	仏	研	66
奥野 自然	無表と tivra について：『俱舍論』業品を中心に	印	仏	研	66
村上 明宏	定静慮(dhyana-samapatti)に関する問題	印	仏	研	66
阿部 真也	『婆沙論』における中有	印	仏	研	66
藤本 庸裕	世親による有漏法の規定の背景：随増(anu-si-)の用法に着目して	印	仏	研	66
日野 慧運	『金光明経』にみえる王権観：護国思想との関連において	印	仏	研	66
平林 二郎	Mahavastu にみられる読誦經典	印	仏	研	66
鈴木 伸幸	Sikṣasamuccaya における sradḍha について	印	仏	研	66
千葉 隆誓	『大乘莊嚴經論』第1詩頌の解釈：「意義の解明」(artha-vibhavana)について	印	仏	研	66
安達 高明	『撰大乘論』「清浄法による法身の撰持」の一考察	印	仏	研	66
北野 新太郎	唯識三性説における akara と bhava について：識転変の〈内〉と〈外〉とをめぐって	印	仏	研	66
桑月 一仁	『菩薩地』「真実義品」における vāstumatra の意味：有と無との対論	印	仏	研	66
近藤 伸介	『撰大乘論』に見る死と再生の過程	印	仏	研	66
王 俊淇	『プラサンナパダー』における『中論』偈頌の形態について	印	仏	研	66
何 歆歆	Candrananda と Bhaviveka の年代再考：「sabda 推論」をめぐって	印	仏	研	66
吉田 哲	『集量論』第一章における〈想起〉の問題	印	仏	研	66
護山 真也	ヨーガ行者による過去や未来の認識について	印	仏	研	66

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

道元大成	非認識論証因における否定対象と認識対象について	印	仏	研	66
加納和雄	ヴィブーティチャンドラの詩稿	印	仏	研	66
拉毛卓瑪	ツォンカパの後期中観思想における「離戲論」について	印	仏	研	66
崔境眞	ゴク翻訳官の『難語釈』における確定(yongs su gcod byed)	印	仏	研	66
谷口富士夫	『現観莊嚴論』トルポパ註における三種の智慧	印	仏	研	66
福田洋一	初期チベット論理学における mtshan nyid の mtshan nyid を巡る議論	印	仏	研	66
石野幹昌	牛頭山初祖法融禪師『心銘』に関する一考察：その成立と思想の諸問題について	印	仏	研	66
韓普光(泰植)	朝鮮明衍の『念仏普勸文』について	印	仏	研	66
奥山直司	E.A.ゴルドンの学問・思想形成	印	仏	研	66
松本史朗, 下田正弘	奈良康明先生を偲ぶ	印	仏	研	66
浅野学	円珍『法華論記』巻第七末における天台章疏の引用について	印	仏	研	66
山口希世美	平安時代の女性の写経と結縁経：『久能寺経』研究の一環として	印	仏	研	66
佐伯憲洋	聖聡述『当麻曼荼羅疏』における因縁和合説の理解	印	仏	研	66
有働智英	古代日本における薬師信仰の受容：放生、大祓の神道思想を視座として	印	仏	研	66
大平寛龍	『本門弘経抄』と『科註妙法蓮華経』	印	仏	研	66
庵谷行遠	円信記『破日蓮義』における『法華経』解釈	印	仏	研	66
安中尚史	近代における日蓮宗の議会制度	印	仏	研	66
清野宏道	道元禪師における成仏思想の射程	印	仏	研	66
高柳さつき	『真禪融心義』の思想構造	印	仏	研	66
高間由香里	新出のフランス国立ギメ東洋美術館所蔵阿弥陀三尊来迎図について	印	仏	研	66
野呂靖	明恵における宋代仏教の受容	印	仏	研	66

藤丸 要	華嚴論義の成立について	印	仏	研	66
進藤 浩司	国際日本文化研究センター図書館蔵の「五臓六腑図」について	印	仏	研	66
鍵和田 聖子	禅林寺宗叡請来資料の後代への影響：理趣経十八会曼荼羅と『理趣経秘要抄』を中心に	印	仏	研	66
藤井 教公	『法華経直談鈔』における「法師品」の検討：『法華経鷲林拾葉鈔』との対比から	印	仏	研	66
箕浦 暁雄	上座の顛倒説に対するサンガパドラの批判	印	仏	研	66
上杉 智英	大正蔵本『後思溪録』の祖本とその問題点	印	仏	研	66
村上 明也	「仏性論争」という呼称が持つ意味の範囲：「成唯識家」が定性二乗の回心向大を承認した事例から	印	仏	研	66
長尾 光恵	『群疑論』所説の二乗種不生論：円測との関係を中心に	印	仏	研	66
小野嶋 祥雄	唐初期三一権実論争と三階教文献	印	仏	研	66
吉村 誠	『般若波羅蜜多心経幽贊』における「空」の解釈について	印	仏	研	66
長倉 信祐	荆溪湛然と唐代密教：李華との思想交渉を中心に	印	仏	研	66
山口 弘江	『法華玄義』における『維摩経』依用について	印	仏	研	66
佐藤 海音	『華嚴五教章』に於ける浄土論	印	仏	研	66
ウィックストローム ダニエル	法蔵における如来蔵縁起の成立意義：『起信論』「立義分」の解釈を通して	印	仏	研	66
倉本 尚徳	靈裕の享年：『統高僧伝』と石刻資料の比較	印	仏	研	66
小早川 浩大	『禅門諸祖師偈頌』にみえる浮山法遠の註釈について	印	仏	研	66
中島 志郎	禅宗四祖道信と一行三昧	印	仏	研	66
和田 壽弘	初期新ニヤヤ学派における原因の概念：シャシャダラの定義（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

近藤隼人	両面鏡比喻の両面性：古典サーンキヤ映像説変遷史（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
須藤龍真	ジャヤンタの擬似論証因における aprayojaka（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
山畑倫志	ネーミナータ説話の変容：行伝から季節詩へ（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
河崎豊	ハリバドラとカーマ肯定論（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
片岡啓	ディグナーガの転義批判（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
小野基	『因明正理門論』過類段偈頌の原文推定とその問題点（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
源重浩	安慧の「唯識性」のもつ二義性について：初期唯識思想と独我論（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
佐藤智岳	『タットヴァサングラハ・パンジカー』最終章における無余の知(asesajnana)について（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
矢崎長潤	チャンドラキールティにおける pratitya の語義解釈：チャンドラ文法およびパーニニ文法の観点から（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
秦野貴生	ダルマキールティの用いる共相の考察（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
羽矢辰夫	「カンダ・サンユッタ」の無常・苦・非我（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
林隆嗣	パーリ註釈文献における sacca の分類：『解脱道論』との比較（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66

鮫島 有理	次第説法とはどのような説法か：施論、戒論、生天論は誰に説かれるのか？ (花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
辛嶋 静志	大衆部と大乘（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
渡辺 章悟	説法師(dharmabhanaka)考（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
岡田 行弘	『法華経』と「大品般若」における仏の神力・神変（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
西 康友	梵文「法華経」における santika- / santika- / antika- の用例（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
富永 曜子	『法華経』「方便品」五千起去に関する漢訳テキストをめぐって：「有如此失」と「有知此失」（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
駒井 信勝	『金剛手灌頂タントラ』の金剛灌頂曼荼羅について（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
静 春樹	時輪教の先駆者ヴァジラパーニと後期インド仏教世界の規律：勇者の饗宴儀礼再考（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
園田 沙弥佳	『成就法の花環』Sadhanamala における大寒林明妃成就法（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
中御門 敬教	〈普賢行願讃〉廻向文に見る浄土思想の展開：例外規定の排除、一切衆生極楽往生（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
岡田 真美子 (真水)	施身聞偈書写説話：善説を書き残す大乘菩薩の物語（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
李 薇	『摩訶僧祇律』偷盜戒条文の「随盗物」の解釈：新しく挿入された可能性をめぐって（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

更 藏 主	アティシャに帰せられる byang chub lam gyi rim pa の構成について (花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
菅 野 博 史	吉蔵『大品経玄意』の研究 (花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
齊 藤 隆 信	二種の彦琮作『合部金光明経序』 (花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
松 森 秀 幸	杏雨書屋所蔵『法花行儀』について (花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
陳 敏 齡	義山『観経随聞講録』の一考察：明清の禅浄融合思想との関連を兼ねて (花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
梁 特 治 (道海)	『臨済録』死活循然の解釈をめぐって (花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
王 征	中国南北朝時代の仏教論書に対する注釈：羽182『誠実論義記卷第四』を中心として (花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
呉 進 幹	『臨済録』における「臨済三句」の形成過程 (花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
通 然	『観心論』の諸本について (花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
楊 玉 飛	空・不空如来蔵の伝承：中国南北朝時代における『勝鬘経』諸注釈書を中心にして (花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
裴 長 春	敦煌本『瑜伽仏[事]』について (花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66
李 忠 煥	大賢の戒律思想：特に三聚浄戒と「瑜伽戒」の影響について (花園大学における第六十八回学術大会紀要(1))	印	仏	研	66

金 龍 泰	朝鮮後期臨濟法統と教育および修行体系の特徴（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
曹 勢 仁	『華嚴略記』第五・第六について：慧苑述『統華嚴略疏刊定記』との関係を中心に（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
金 炳 坤	『三平等義』所引の「注云」について（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
大 柴 清 圓	教日撰『授菩提心戒儀式』と『弁頭密二教論』（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
上江洲 安 宏	沖縄の仏教（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
前 川 健 一	『神護寺如法執行問答』について（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
愛 宕 邦 康	平均葬儀費用調査の有用性と様変わりする業界の構図（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
岡 田 文 弘	説話の創出：鎮源『法華験記』第二話「行基菩薩」注記（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
辻 本 臣 哉	禅林寺山越阿弥陀図：証空及び天台本覚思想の影響について（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
藤 原 智	日本古写経『弁正論』巻第三の諸本比較：築島裕氏の検討を受けて（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
赤 塚 祐 道	中世根来寺における開版事業（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
深 谷 恵 子	日蓮教学における五義の一研究（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

本 間 俊 文	讃岐公日源写本『立正安国論』に関する一考察（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
春 本 龍 彬	廬山寺蔵『選択本願念仏集』における法然上人による推敲：第十二章段において加えられた廃立の義について（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
南 宏 信	法然における善導『法事讃』「直為弥陀弘誓重」等の文をめぐる解釈（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
石 川 琢 道	浄土宗全書の底本ならびに諸版について（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
横 山 龍 顯	『宝慶由緒記』における三代相論の成立（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
秋 津 秀 彰	太容梵清に関する研究の現況と課題（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
角 田 隆 真	『瑩山清規』における四節について：「結夏」を中心に（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
新 井 一 光	『正法眼蔵』「三界唯心」巻に引用される『法華経』「如来寿量品」の経文をめぐって（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
龍 谷 孝 道	竹居正猷『幻寄集』にみる室町期曹洞宗の公案禅受容（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
古 瀬 珠 水	鎌倉期における禅宗の多様性と独自性：称名寺蔵『覚性論』について（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
館 隆 志	中世禅林における菖蒲茶：宋朝禅文化の復元的考察（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66

菅原研州	乙堂喚丑『正法眼蔵統絃講義』における『正法眼蔵』の引用について（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
笠井哲	沢庵禪師における医学思想について（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
石井修道	鈴木大拙と『新宗教論』（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
木村俊彦	世尊拈花の話則と正法山妙心禪寺：付・「大灯国師遺誡」の原典（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
伊藤真	二人は李通玄の華嚴思想に何を求めたのか：宋代中国の張商英と鎌倉時代の明恵（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
鈴木雄太	「初発心時便成正覚」の一考察：中世真言学僧の華嚴解釈を中心に（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
佐藤隆彦	密教経軌における定型表現について：次第成立をめぐる第一段階について（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
伊吹敦	日本天台における「四宗相承」の成立（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
中村本然	『釈摩訶衍論』に説かれる「勸修利益分」の特徴について（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
李子捷	敦煌写本 S.6388『勝鬘経疏』に見られる種性説と如来蔵説（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
倉松崇忠	不染無知と解脱障（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
櫻井唯	智儼撰『孔目章』の十義門と中国唯識諸派（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

真野新也	『大日経義釈』・『大日経疏』における如来蔵と阿頼耶（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
小川太龍	『伝心法要』に見る唐代禅の思想展開：ありのままの馬祖禅から空に回帰する黄檗の禅へ（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
加藤弘孝	『念仏鏡』の撰述背景：「誓願証教門」に見える善導観を中心に（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
久保田正宏	蒙潤の性徳・修徳境解釈に関する問題（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
釈悟灯	『六妙門』の系統と成立について（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
大松久規	『六妙門』に見られる禅観（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
中井本勝	吉蔵撰『法華論疏』における法華経解釈について（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
師茂樹	八世紀における唯識学派の対外交流：崇俊・法清(法詳)を中心に（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印	仏	研	66
土谷真紀, TSUCHIYA Maki	「秀次公縁起」（京都・瑞泉寺蔵）と「関白草紙」（愛知・正法寺蔵）をめぐる一考察	お茶の水女子大学 人文科学研究			14
源重浩	新古唯識の諸問題：初期唯識思想と独我論	九州龍谷短期 大学紀要			64
川上知里	『打聞集』論	国語と国文学			94
Matsumoto Shiro	Japanese Philosophy and Buddhism	駒沢大学仏教学部 研究紀要			76
大澤邦由	温陵戒環禅師『楞嚴経要解』初探：特に泉州開元寺に着目して	駒沢大学仏教学部 研究紀要			76
松本史朗	Japanese Philosophy and Buddhism	駒沢大学仏教学部 研究紀要			76
金沢篤	藤原伊織の青春	駒沢大学仏教学部 研究紀要			76

木村 誠司	チャンキヤ『宗義書』における部派 仏教に関する記述(1)	駒沢大学仏教学部 研究紀要	76
四津谷 孝道	空見について	駒沢大学仏教学部 研究紀要	76
奥野 光賢	現代日本における中国三論宗の研究 について	駒沢大学仏教学部 研究紀要	76
程 正	英藏敦煌文獻から発見された禪籍に ついて：S6980以降を中心に(2)	駒沢大学仏教学部 研究紀要	76
大澤 邦由	温陵戒環禪師『楞嚴経要解』初探： 特に泉州開元寺に着目して	駒沢大学仏教学部 研究紀要	76
角田 泰隆[訳]	『正法眼蔵』「仏性」巻訳註(3)	駒沢大学仏教学部 研究紀要	76
石井 公成	書評 大竹晋『大乘起信論成立問題 の研究：『大乘起信論』は漢文仏教 文獻からのパッチワーク』	駒沢大学仏教学部 研究紀要	76
徳 護	北宋における禅僧の動向：覚範の政 治的立場について(研究会発足五十 周年記念号)	駒沢大学大学院 仏教学研究会年報	50
武井 謙悟	明治の仏教者と仏前結婚式(研究会 発足五十周年記念号)	駒沢大学大学院 仏教学研究会年報	50
李 子捷	三階教における如来蔵説の一考察： 『仏性観修善法』・『仏性観』と『宝 性論』を中心に(研究会発足五十周 年記念号)	駒沢大学大学院 仏教学研究会年報	50
横山 龍顯	三代相論の諸問題(研究会発足五十 周年記念号)	駒沢大学大学院 仏教学研究会年報	50
角田 隆真	智門光祚の頌古についての研究(2) 世尊陞座章における比較について (研究会発足五十周年記念号)	駒沢大学大学院 仏教学研究会年報	50
金沢 篤	ダマヤンティーの愛：bhaktiの意味 を尋ねて(永井政之教授 退任記念號)	駒沢大学 仏教学部論集	48
矢島 道彦	Mona：The Path of the Sage(永井 政之教授 退任記念號)	駒沢大学 仏教学部論集	48
木村 誠司	アビダルマ文獻の六因仏説論について (永井政之教授 退任記念號)	駒沢大学 仏教学部論集	48
小山 一乘	亜種概念「宗派教育」と類概念「宗教 的情操教育」との教授概念の教育論理 管窺(永井政之教授 退任記念號)	駒沢大学 仏教学部論集	48

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

古山健一	Jinakalamali について：特に1つの難句をめぐって (永井政之教授 退任記念號)	駒沢大学 仏教学部論集	48
李子捷	南北朝隋唐仏教と『菩薩地持經』(永井政之教授 退任記念號)	駒沢大学 仏教学部論集	48
程正	英藏敦煌文獻から發見された禪籍について：S6980以降を中心に(1) (永井政之教授 退任記念號)	駒沢大学 仏教学部論集	48
横山龍顯	龍門寺所蔵『正法眼蔵仏祖悟則』の資料的価値(1)『伝光録』・『仏祖正伝記』との関係を中心に (永井政之教授 退任記念號)	駒沢大学 仏教学部論集	48
吉村誠	中国の文獻に見られる瑜伽行派と中觀派の論争 (永井政之教授 退任記念號)	駒沢大学 仏教学部論集	48
飯塚大展	林下曹洞宗における相伝史料研究序説(12)雙林寺所蔵史料(其4) (永井政之教授 退任記念號)	駒沢大学 仏教学部論集	48
佐藤秀孝	無門慧開の生涯と『無門関』(1)杭州天龍寺から月林師觀のもとへ (永井政之教授 退任記念號)	駒沢大学 仏教学部論集	48
石井公成	漢詩から和歌へ(3)良岑安世・僧正遍昭・素性法師 (永井政之教授 退任記念號)	駒沢大学 仏教学部論集	48
永井政之, 程正, 大澤邦由, 徳護, 五十嵐嗣郎, 長谷川淳一	『宋会要』道积部訓注(12)資料編 (永井政之教授 退任記念號)	駒沢大学 仏教学部論集	48
一郷正道	空思想に見る還相回向 (宗学院公開講座(二〇一六年度))	宗学院論集	90
金炳坤	『菩薩戒本持犯要記』の日本的展開	宗教学研究	91
飯島孝良	市川白弦における「即」の論理：— その批判的継承と一休の「像」 —	宗教学研究	92
櫻井義秀	矢野秀武著『国家と上座仏教—タイの政教関係—』	宗教学研究	92
前川健一	松尾剛次著『中世叡尊教団の全国的展開』	宗教学研究	92
谷山洋三	書評と紹介 坂井祐円著『仏教からケアを考える』	宗教学研究	91

徳野 崇行	書評と紹介 清水邦彦著『中世曹洞宗における地藏信仰の受容』	宗 教 研 究	91
谷川 穰	書評と紹介 オリオン・クラウタウ編『戦後歴史学と日本仏教』	宗 教 研 究	91
横山 龍顯	翻刻 京都大学附属図書館谷村文庫所蔵『瑩峩行実集録』	曹洞宗研究員 研究紀要	48
海老澤 早苗	出羽国光明山極楽寺に関する研究序説	曹洞宗研究員 研究紀要	48
福井 敬	高木顕明の僧籍復権と部落解放同盟——同朋会運動の展開を中心に——	大正大学大学院 研究論集	42
木村 秀成	『マハープラティサラー（大随求陀羅尼經）』におけるダラニの尊格化について——宝思惟訳を中心に——	大正大学大学院 研究論集	42
久保田 綾	日本仏教彫刻史研究における顔認識システム利用の有効性について	大正大学大学院 研究論集	42
岩谷 泰之	森鷗外と仏教——亀井茲監を中心に——	大正大学大学院 研究論集	42
尾崎 正善	愛知県乾坤院・長円寺所蔵の『伝光録』：平成二十九年度研究調査報告	鶴見大学仏教 文化研究所紀要	23
尾崎 正善	「大乘寺系回向帳」二冊：解題と翻刻	鶴見大学仏教 文化研究所紀要	23
下室 覚道	慈円と道元の「道理」に関する一考察	鶴見大学仏教 文化研究所紀要	23
納 富 常天	新修總持寺史	鶴見大学仏教 文化研究所紀要	23
別府 良孝	日蓮正宗の戦時教学と藤本蓮城師	東 海 仏 教	63
進藤 浩司	『酬医頓得』の思想	東 海 仏 教	63
高崎 秀一	道元禪師『正法眼蔵』「仏性」巻について	東 海 仏 教	63
和田 壽弘	インド哲学における存在とカテゴリー——新ニヤヤー学派のカテゴリー論	東 海 仏 教	63
愛宕 邦康	安珍罪過考：そのパーソナリティーの変遷に着目して	東 海 仏 教	63
中川 剛	大逆事件に連座した僧侶の各宗派における復権過程	東 海 仏 教	63

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

春日井 真 英	東海地方に見る隠れキリシタンの痕跡：翼を有する石仏達：石仏のイコノロジー(8)	東 海 仏 教	63
福 田 琢	阿毘達磨仏説論と第一結集伝説(廣瀬惺先生退職記念 菱木政晴先生退職記念)	同 朋 仏 教	53
井 川 芳 治	存如下付親鸞聖人「左上御影」考(廣瀬惺先生退職記念 菱木政晴先生退職記念)	同 朋 仏 教	53
佐 藤 晃	カマラシーラによる縁起性論證の論理構造の解明	東洋の思想と教 宗	35
益 田 貴 裕	伊藤仁齋における「誠」と「本體」「修爲」	東洋の思想と教 宗	35
サンヴィド マルタ	『人天眼目』に關わる抄物の曹洞宗と臨濟宗における相互交渉	東洋の思想と教 宗	35
崔 鵬 偉	『今昔物語集』卷二十七第五「冷泉院水精成人形被捕語」考：怪異の正體を中心に	東洋の思想と教 宗	35
日 比 宣 仁	智顛の教學における病行について	東洋の思想と教 宗	35
袴 田 郁 一	范曄『後漢書』の後漢末觀と劉宋貴族社會	東洋の思想と教 宗	35
永 富 青 地	胡宗憲本『陽明先生文錄』および附録『傳習錄』について	東洋の思想と教 宗	35
渡 邊 義 浩	劉歆の「七略」と儒教一尊	東洋の思想と教 宗	35
安 藤 弥	宗教一揆論という課題(2017年度日本史研究会大会特集号 統合原理と政治・社会・文化)	日 本 史 研 究	667
藤 井 健 志	書評と紹介 佛教史学会編『仏教史研究ハンドブック』	宗 教 研 究	91
高 橋 沙奈美	レニングラードの福者(ブラジェーナヤ)クセーニヤ：社会主義体制下の聖人崇敬	宗 教 研 究	91
静 春 樹	金剛乘における複数のヴァジラパーニについて	高野山大学密教文化研究所紀要	31
高 柳 健太郎	『宗義決択集』に見る弘法大師の思想の展開：「五常引業」を題材として	高野山大学密教文化研究所紀要	31

大柴清圓	『梵字悉曇字母并釋義』と『悉曇釋』引用説：付・高野山大學圖書館所藏『梵字悉曇字母并釋義 御作』翻刻本	高野山大学密教文化研究所紀要	31
荒木浩	出産の遅延と二人の父：『原中最秘抄』から観る『源氏物語』の仏伝依拠	国語と国文学	95
金宙賢	菊池寛「俊寛」論：俊寛の〈転生〉から見えてくるもの	国語と国文学	94
吉岡諒	無住における遁世の論理：「世を捨つる」と「心を捨つる」のはざままで	日本宗教文化史研究	21
苫名悠	《彦火々出見尊絵巻》に見られる名所絵的性格とその意義	日本宗教文化史研究	21
小南妙覚	慈覚大師円仁の揚州における将来物菟集について：悉曇・密教・天台典籍を中心に	日本宗教文化史研究	21
大原眞弓	一代一度仏舎利使の成立	日本宗教文化史研究	21
小山元孝	近代丹後における神社境内と由緒の創出について：京都府京丹後市大宮町「大野神社」を例として	日本宗教文化史研究	21
山口えり	陰陽寮の三合歳算定法	日本歴史	833
中村憲司	国司官長の再検討	日本歴史	832
加納亜由子	旗本別所氏旧蔵播磨国絵図の成立と伝来：一七世紀官撰国絵図流布の観点から	日本歴史	831
松本政春	京職兵士と軍団：京職兵士の補給源	日本歴史	831
古川祐貴	対馬宗家と朝鮮御用老中	日本歴史	831
松本大輔	親王宣下・源氏賜姓制の基礎的考察：嵯峨源氏賜姓詔の検討を中心に	日本歴史	829
伊藤匡芳	『新撰姓氏録』の抄本：抄出・附記意図から作成者像へ	日本歴史	828
塩田英子	Dichotomous but Complementary Aspects of Kami and Hotoke Concepts in Japanese Language	龍谷大学論集	491
小笠原亜矢里	阿含・ニカーヤにおける三十二相と白毫相についての考察	武蔵野大学仏教文化研究所紀要	34

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

田 湖, 遠藤 祐介[訳], TIAN Hu	南北朝期における「地持学」兼学の伝統とその要因について	武蔵野大学仏教文化研究所紀要	34
肖 越, XIAO Yue	Self-Benefit and Benefit for Others in the Pure Land Sūtras	武蔵野大学仏教文化研究所紀要	34
TIAN Hu, 遠藤 祐介[訳]	南北朝期における「地持学」兼学の伝統とその要因について	武蔵野大学仏教文化研究所紀要	34
小笠原 亜矢里	阿含・ニカーヤにおける三十二相と白毫相についての考察	武蔵野大学仏教文化研究所紀要	34
大 澤 広 嗣	書評 中西直樹『植民地台湾と日本仏教』（中川修先生退職記念特集）	仏教史研究	56
渡 邊 勇 祐	小比叡神の神格形成とその背景：平安前期における比叡山西塔の動向を手がかりに（中川修先生退職記念特集）	仏教史研究	56
中 本 由 美	日本古代における「宗」の形成（中川修先生退職記念特集）	仏教史研究	56
山 本 潤	古代における悔過の受容と変容：懺悔から修善へ（中川修先生退職記念特集）	仏教史研究	56
中 川 修	行基再考：最初の一步（中川修先生退職記念特集）	仏教史研究	56
康 昊	『元亨釈書』の歴史構想における顕密仏教と禅宗	日本史研究	665
葛 継 勇	古代史部会 入唐僧円仁と唐人楊敬之：円仁の求法巡礼を支えた唐人の仏教信仰ネットワーク	日本史研究	664
西 弥 生	東寺一門像の形成過程：「東要記」を中心に	日本歴史	833

<浄土教>

高 木 灌 照	研究発表要旨 時衆と宇都宮氏	時宗教学年報	46
遠 山 元 浩	研究発表要旨 時衆史料の研究と紹介：『一遍上人縁起絵』と遊行寺宝物館収蔵品について	時宗教学年報	46

吉田 知一	平成二十九年度 奨学資金受給者成果報告 浄土教と太子信仰	時宗教学年報	46
那須 一雄	明遍浄土教再考	印 仏 研	66
伊藤 茂樹	南都浄土教と永明延寿	印 仏 研	66
成瀬 隆順	禅那院珍海の念仏観について	印 仏 研	66
中村 玲太	顕意撰『註五方便念仏門』について：浄土・天台「両祖同轍」を中心とした考察（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印 仏 研	66
安田 理深	自己の根元と自己との対話：願生論(14)	親 鸞 教 学	109
花 栄	五台山念仏思想の継承と展開：主に日本天台浄土教における念仏思想について	東 海 仏 教	63
原 口 志津子	長松山本法寺蔵「法華経曼荼羅図」と「二河白道図」	日 本 宗 教 文 化 史 研 究	21
山 田 雅 教	光明本尊の成立背景	日 本 宗 教 文 化 史 研 究	21
富 島 義 幸	阿弥陀迎接堂の空間造形と信仰：松川阿弥陀迎接像を安置した仏堂をめぐる一試論	日 本 宗 教 文 化 史 研 究	21
サムエル C・モース	日本宗教文化史学会二十周年記念講演 尊像の社会的意義：西洋の視点から見た日本仏教彫刻史（西洋から見た日本宗教文化史：研究方法とそこから浮かびあがる特質）	日 本 宗 教 文 化 史 研 究	21
ジャメンツ マイケル	日本宗教文化史学会二十周年記念講演 中世の普賢信仰に於ける絵画と唱導：象などの消滅事件（西洋から見た日本宗教文化史：研究方法とそこから浮かびあがる特質）	日 本 宗 教 文 化 史 研 究	21
肖 越	浄土経典における「自利」と「利他」	武蔵野大学仏教文化研究所紀要	34

〈教理史〉

上野 牧生	ヴァスバンドゥの經典解釈法(1)經典の目的(sutrantaprayojana)	佛教学セミナー	105
ローズ ロバート F.	『一乗要決』に見られる二乗永滅説批判：『成唯識論掌中樞要』への反論を中心に	佛教学セミナー	106
長尾 隆寛	『三部經大意』に示される至誠心積について	仏学文化要	26
佐竹 真城	永観撰『阿弥陀經要記』の特徴について：附『阿弥陀經要記』逸文補遺	眞宗研究	62
三池 大地	道綽における時の問題	眞宗研究	62
福井 順忍	道綽と隋唐仏教	眞宗研究	62
吉岡 諒	明遍と明禅の遁世思想の構造：遁世思想の岐路	眞宗研究	62
小塩 慶	国風文化期における中国文化受容：異国描写を手掛かりとして	史 林	100(6)
藤澤 信照	「玄義分」六字釈についての一考察	龍谷教学	53
長谷川 浩文	法然の高野山籠時期（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印 仏 研	66
長宗 博之	『往生論註』における五念門の位置づけ：僧肇の般若思想を通して（花園大学における第六十八回学術大会紀要(1)）	印 仏 研	66
溪 英 俊	曇鸞著述に関する一考察：特に『略論安楽土義』の位置	印 仏 研	66
上野 隆平	『浄土論』「願生偈」第2偈の理解をめぐる	行信学報	30
森本 光慈	法本房行空上人の教学試考：とくに寂光土義をめぐる(その2)	行信学報	30
藤澤 信照	安心門と起行門：『往生礼讃』前序の所説を通して	行信学報	30
中村 玲太	『西方指南抄』所収『法然聖人御説法事』から見る法然の思想遍歴	現代と親鸞	35

桜井宏徳	書評 山本淳子著『紫式部日記と王朝貴族社会』	国語と国文学	95
高野奈未	物語の「興」：賀茂真淵『伊勢物語古意』と先行注釈	国語と国文学	95
中島和歌子	書評 山中悠希著『堺本枕草子の研究』	国語と国文学	95
平井吾門	『雅言集覧』に見られる『倭訓栞』への意識：百人一首歌および『倭名類聚抄』の扱いを通して	国語と国文学	95
野本瑠美	崇徳院と長歌	国語と国文学	95
井内健太	『源氏物語』須磨・明石巻の天変	国語と国文学	95
青木賜鶴子	『伊勢物語』の本文・解釈と挿絵：「白描伊勢物語絵巻」第二十七段の場合	国語と国文学	95
袴田光康	書評 浅尾広良著『源氏物語の皇統と論理』	国語と国文学	94
今井久代	『狭衣物語』異本系本文の世界：飛鳥井君物語を中心に	国語と国文学	94
廣岡義隆	『常陸國風土記』における「俗」字と割注について	国語と国文学	94
石田千尋	古事記の歌と中国詩文：鯨(くぢら)・隼(はやぶさ)・花蓮(はなばちす)	国語と国文学	94
宋 哈	嵯峨朝詩壇における菅原清公「嘯賦」の意義	国語と国文学	94
伊藤 劍	現伝『出雲国風土記』の成立をめぐる	国語と国文学	94
廣田 收	『源氏物語』「物語」考	国語と国文学	94
阿部 亮太	認識としての「保元・平治」：物語は院政期の動乱をいかに捉え直すか	国語と国文学	94
板野みづえ	「むすぼほる」考：新古今時代の用法を中心に	国語と国文学	94
山崎健司	うら悲しき景：大伴家持の春愁歌の表現をめぐる	国語と国文学	94
大橋早帆	『保元物語』における怨霊・天狗像の考察(研究会発足五十周年記念号)	駒沢大学大学院 仏教学研究会年報	50

秋津秀彰	『永平元禪師語録』の諸本と異本について：延文本・正保本を中心として（研究会発足五十周年記念号）	駒沢大学大学院 仏教学研究會年報	50
和隆道	親鸞聖人の三心釈と善導大師の三心釈との関係について：隆寛律師の三心理解を手がかりとして	宗学院論集	90
長谷千代子	エリック・シッケタンツ著『墮落と復興の近代中国仏教——日本仏教との邂逅とその歴史像の構築——』	宗教研究	92
廣瀬惺	「至誠心釈」ノート（廣瀬惺先生退職記念 菱木政晴先生退職記念）	同朋仏教	53
久水俊和	中世史・近世史合同部会 中近世移行期の内野：神祇官・太政官庁機能の行方	日本史研究	667
岡島陽子	古代史部会 八世紀後半～九世紀における女官の「與男官共預知」の実態について	日本史研究	667
川尻秋生	九世紀における唐制受容の一樣相：中世文書様式成立の史的前提（2017年度日本史研究会大会特集号 統合原理と政治・社会・文化）	日本史研究	667
大塚紀弘	書評 大谷由香著『中世後期泉涌寺の研究』	日本史研究	664
荒武賢一朗	近世における銀主と領主（特集 領主財政を考える）	日本史研究	664
水谷千秋	書評 笹川尚紀著『日本書紀成立史攷』	日本史研究	657
本郷真紹	聖武天皇の生前退位と孝謙天皇の即位	日本史研究	657
武井紀子	本庄聡子氏報告 「律令国家と「天平の転換」：出挙制の展開を中心に」について（二〇一六年度日本史研究会大会報告批判）—（共同研究報告）	日本史研究	656
古尾谷知浩	古代の木器生産（小特集 古代の生産・流通と国家・社会編成）	日本史研究	656
菱田哲郎	五、六世紀の手工業生産と王権（小特集 古代の生産・流通と国家・社会編成）	日本史研究	656
富島義幸	平安時代の阿弥陀信仰と密教	日本宗教 文化史研究	21

手嶋大侑	平安中期の年官と庄園	日本歴史	830
蓑島栄紀	歴史手帖『日本書紀』の「問菟の蝦夷」と太平洋沿岸交流	日本歴史	827
田中無量	道綽浄土教における因果論の教理史的研究	武蔵野大学仏教文化研究所紀要	34
矢田尚子	唐代宮女「男装」再考（歴史のなかの異性装）—（アジア）	アジア遊学	210
倉本一宏	古代史部会 戦争の古代史	日本史研究	659
駒井匠	古代史部会 平安前期の天皇と僧綱：貞観六年の僧綱補任を中心に	日本史研究	659
坂井孝一	史料散歩 系図・家譜にみえる平安末期の工藤一族伊東氏	日本歴史	829

〈真宗教義学〉

藤原智	親鸞と聖岡の『弁正論』引用について：親鸞の引用は親鸞による抄出か	東アジア仏教研究	16
原田愛美子	『教行信証』における人間観：集生とは	龍谷教養	53
西川裕美子	「獲得名号自然法爾」について	龍谷教養	53
川添泰信	法然・親鸞・恵信尼・唯円における師弟の問題（川添泰信教授定年退職記念特集号：浄土仏教と親鸞教義）	眞宗學	137・138
鍋島直樹	親鸞における生死出離の道（中）「横超断四流」の意義（川添泰信教授定年退職記念特集号：浄土仏教と親鸞教義）	眞宗學	137・138
武田晋	浄土真宗における「報謝」考（川添泰信教授定年退職記念特集号：浄土仏教と親鸞教義）	眞宗學	137・138
殿内恒	親鸞撰述にみる第二十願の意義（川添泰信教授定年退職記念特集号：浄土仏教と親鸞教義）	眞宗學	137・138
高田文英	『教行信証』報化二土の引文を読み解く：懈慢界説の歴史的帰趨（川添泰信教授定年退職記念特集号：浄土仏教と親鸞教義）	眞宗學	137・138

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

能 美 潤 史	『教行信証』坂東本に付された角点に関する諸問題（川添泰信教授定年退職記念特集號：浄土仏教と親鸞教義）	眞 宗 學	137・138
山 崎 隆 弘	真宗学会第七十一回大会研究発表要旨親鸞における聞名の一考察（川添泰信教授定年退職記念特集號：浄土仏教と親鸞教義）	眞 宗 學	137・138
Inoue Yoshiyuki (井上善幸)	The Basis of Mahayana : Shinran's Understanding of the One Buddha Vehicle, the Vow (川添泰信教授定年退職記念特集號：浄土仏教と親鸞教義)	眞 宗 學	137・138
Dake Mitsuya (嵩満也)	Universality and Exclusivism in Religious Dialogue from the Perspective of Shinran's Thought (川添泰信教授定年退職記念特集號：浄土仏教と親鸞教義)	眞 宗 學	137・138
黒 田 浩 明	第二十三回 真宗大谷派教学大会 真仏土の救済的力用について：『浄土論註』引文の検討を通して	真宗教学研究	38
藤 元 雅 文	第二十三回 真宗大谷派教学大会 『愚禿鈔』における浄土観	真宗教学研究	38
伊 東 恵 深	顕真実行：『教行信証』「行巻」十一師の文の引意を中心として	眞 宗 研 究	62
北 島 義 信	『顕浄土真実教行証文類』「化身土文類」における親鸞の世界認識	高 田 学 報	106
浦 井 聡	「仏性未来」と「一切衆生悉有仏性」の時間的矛盾をめぐって：親鸞浄土教における救済の時間的構造	高 田 学 報	106
英 月	人生に生きる和讃：源信と親鸞	春 秋	590
渥 美 光	親鸞聖人の法然観とその周辺一顕智本『浄土和讃』「勢至讃」を中心として一	山口真宗教学	28
武 田 未来雄	親鸞における仏身仏土：その時間性的意義について	印 仏 研	66
板 敷 真 純	初期真宗における東国門徒の戒律観	印 仏 研	66
貫 名 讓	親鸞の六字釈：伝統と己証	印 仏 研	66
西 村 慶 哉	親鸞における第十九願理解	印 仏 研	66
西 河 唯	親鸞と聖覚の来迎観	印 仏 研	66

梯 實 圓	第一〇四回 専精舎本講『唯信鈔文意』	行 信 学 報	30
武 田 一 真	親鸞における「はじめて」「もとより」考	行 信 学 報	30
米 田 順 昭	『正信念仏偈』における「攝取心光常照護」の譬喩についての一考察	行 信 学 報	30
軌 保 真 澄	転の意義(その3)大悲心とぞ転ずなる	行 信 学 報	30
岡 村 喜 史	学術講演 親鸞の妻について	行 信 学 報	30
青 柳 英 司	『教行信証』 「行巻」 における善導引文の展開について	現 代 と 親 鸞	37
本 多 弘 之	親鸞思想の解明 浄土を求めさせたもの：『大無量寿経』を読む(22)	現 代 と 親 鸞	36
本 多 弘 之	親鸞思想の解明 浄土を求めさせたもの：『大無量寿経』を読む(21)	現 代 と 親 鸞	35
加 来 雄 之	『教行信証』 「化身土巻・末巻」 研究会「対偽対仮」という営み：「顕浄土方便化身土文類」の課題	現 代 と 親 鸞	35
須 藤 あゆ美	『とはずがたり』 卷一の今様とその文化史的背景：後深草院と淵酔との関わりから	国 語 と 国 文 学	94
原 田 敦 史	『平家物語』 富士川合戦譚考	国 語 と 国 文 学	94
千 葉 隆 誓	化身土開顕の意義をめぐる諸問題についての一考察：「真身観仏」を中心として	宗 学 院 論 集	90
杉 田 了	親鸞聖人と『恵信尼消息』 第五通について	宗 学 院 論 集	90
四 夷 法 顕	親鸞聖人における懺悔観形成の源泉：叡山修行時代を手がかりとして	宗 学 院 論 集	90
橋 本 順 正	親鸞と上野国(1)三部経千部読誦の研究 (特集テーマ 関東伝道)	浄 土 真 宗 総 合 研 究	11
前 田 壽 雄	『親鸞伝絵』 箱根霊告段をめぐる問題と親鸞の神祇観 (特集テーマ 関東伝道)	浄 土 真 宗 総 合 研 究	11
辻 岡 健 志	関東大震災と築地本願寺の復興 (特集テーマ 関東伝道)	浄 土 真 宗 総 合 研 究	11
今 井 雅 晴	関東における浄土真宗研究の現状と課題・展望 (特集テーマ 関東伝道)	浄 土 真 宗 総 合 研 究	11

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

金子大榮	仏となる道：『教行信証』の諸問題 (17)	親鸞教学	109
瀧弘信	「愚禿善信」考：文明版『正像末和讃』 の撰号をめぐって	親鸞教学	109
中山量純	無義為義：親鸞晩年の課題と二種回向	親鸞教学	109
西村一樹	「真仏土文類」『涅槃経』第十二引文に ついて（花園大学における第六十八回 学術大会紀要(1)）	印 仏 研	66

〈教学史・思想史〉

朴澤直秀	新地建立禁令をめぐって	仏教史学研究	60(1)
中西直樹	戦前期日本仏教のシンガポール布教	仏教史学研究	60(1)
長谷川琢哉	書評 山本伸裕・碧海寿広編『清沢満 之と近代日本』	仏教史学研究	60(1)
三輪真嗣	新刊紹介 坂本亮太・末柄豊・村井祐 樹編『高雄山神護寺文書集成』	仏教史学研究	60(1)
西山史朗	近衛府下級官人補任稿（1）	佛敎大学大学院紀要 文学研究科篇	46
北野元生	西東三鬼の短編小説「家鴨の卵」 論：横光利一「機械」との類似点と 相異点をめぐって	佛敎大学大学院紀要 文学研究科篇	46
堀岡喜美子	明治維新「神子禁止令」の思想背景 と社会的意味：「淫祀論争」と大阪 の動向から	佛敎大学大学院紀要 文学研究科篇	46
宮智麻里	英文資料から読む西洋人の見た九代 目市川團十郎	佛敎大学大学院紀要 文学研究科篇	46
坂本卓也	幕末・明治期の船舶用蒸気機関運用 技術について	佛敎大学大学院紀要 文学研究科篇	46
前島信也	『広疑瑞決集』における往生の定・不 定	仏教文化 学会紀要	26
春本龍彬	義山所説の『選択集』「稿本」と「廬 山寺本」をめぐって	仏教文化 学会紀要	26
嶋田毅寛	三木清の『親鸞論』の解釈：三木清の 哲学的信仰	仏教文化 学会紀要	26

濱田由美	藩校・寺子屋から学校へ：忍藩領を中心に	仏教文化 学会紀要	26
三浦周	戦時下における伝道学と標準語：中野隆元を中心として	仏教文化 学会紀要	26
三栗章夫	『教行信証』の成立とその流伝について（『教行信証』（文明本）の研究）	龍谷大学仏教 文化研究所紀要	56
和田恭幸	東保流説教小考	龍谷大学仏教 文化研究所紀要	56
井之上大輔	明治初年の宗教関係法令・文書におけるアマテラス：国家神道の受容基盤との関連で（宗教関係法令の研究）	龍谷大学仏教 文化研究所紀要	56
中西直樹	近代仏教婦人会の興起とその歴史的意義	龍谷大学仏教 文化研究所紀要	56
龍溪章雄	金子大榮における「浄土の開顕」の思想的考察：『浄土の観念』を読み解く（序説）（川添泰信教授定年退職記念特集號：浄土仏教と親鸞教義）	眞宗學	137・ 138
杉岡孝紀	西田哲学と親鸞思想(3)場所的論理と〈仏-衆生〉の関係論（川添泰信教授定年退職記念特集號：浄土仏教と親鸞教義）	眞宗學	137・ 138
井上見淳	小児往生論の研究(上)名代だのみを中心として（川添泰信教授定年退職記念特集號：浄土仏教と親鸞教義）	眞宗學	137・ 138
岩田真美	明治期の真宗における女性教化：「妙好人」楢取希子と小野島行薫を中心に（川添泰信教授定年退職記念特集號：浄土仏教と親鸞教義）	眞宗學	137・ 138
川口淳	明治二四年の真宗大谷派改革運動：龍華空音を起点として	大谷学報	97(2)
野口実	東国に下った仏教者と在地武士：親鸞・忍性と宇都宮氏の一族	研究紀要（京都女子大 学宗教・文化研究所）	31
松金直美	第二十三回 真宗大谷派教学大会 学寮講者にみる護法思想：香樹院徳龍を事例として	眞宗教学研究	38
浦井聡	武内義範の親鸞研究の視座：教行信証の論理	眞宗研究	62
伊藤顕慈	若霖の行信論研究	眞宗研究	62

平成二九年度 真宗関係研究論文目録

西本祐攝	清沢満之の平等観に学ぶ	真宗研究	62
貴島信行	真宗における念仏僧伽の形成	真宗研究	62
老泉量	美濃地域における本願寺教団の形成	真宗研究	62
黒田義道	中世真宗談義本の教学史的検討：親鸞 仮託の談義本	真宗研究	62
嵩宣也	明治初期における真宗翻訳事業とその 展開	真宗研究	62
堤正史	清沢満之における知と愚信の問題：時 間論的視点	高田学報	106
横田理博	鈴木大拙の『日本の靈性』について の考察(上)	哲学年報(九州大学大 学院人文科学研究院)	77
林晃弘	雲叔玄龍：豊臣秀頼に仕えた薩南学派 の僧	史林	100(3)
小林健太	本願寺と「勤王僧」：月性の京都にお ける活動を中心に	本願寺史料 研究所報	53
尾崎誠仁	西光寺祐俊筆「聖教目録」(下)	本願寺史料 研究所報	54
かげはら史帆	フェルディナント・リース物語(第6 話)楽園の再生：一八二八-一八三八	春秋	597
島菌進	大正・昭和前期の宗教と社会(13)皇 室=神社の一体性と国家神道の新展開	春秋	597
細川廣次	ビートニクたちが求めた悟り	春秋	596
かげはら史帆	フェルディナント・リース物語(第5 話)帰還から再起へ：一八二四-一八二 八	春秋	596
島菌進	大正・昭和前期の宗教と社会(12)知識 人の神道観・天皇観の変容	春秋	596
かげはら史帆	フェルディナント・リース物語(第2 話)師の使命、師弟の試練：一八〇一- 一八〇五	春秋	593
かげはら史帆	フェルディナント・リース物語(第1 話)楽園の揺りかご 一七八四-一八〇 一	春秋	592
島菌進	大正・昭和前期の宗教と社会(10)石橋 湛山が捉えた集合的沸騰の日本	春秋	591

島 蘭	進	大正・昭和前期の宗教と社会(9)群衆 が育てた国家神道	春	秋	590
塩 山	千 仞	モーツァルトの青春 断想(9)	春	秋	590
島 蘭	進	大正・昭和前期の宗教と社会(8)二重 橋前平癒祈願と大衆の「熱誠」	春	秋	589
彌 永	信 美	日本の「宗教」/宗教はどんなものだったか・暫定的総括：日本「宗教」史ゼ ロ章として(下)	春	秋	589
立 川	武 蔵	ブッディスト・セオロジーの試み(3) 自己否定のプロセス	春	秋	589
小 山	聡 子	平安時代のモノノケの姿	春	秋	589
飯 塚	立 人	開花に包まれた萌芽：『シュタイナー 根源的靈性論：バガヴァッド・ギーター とパウロの書簡』を読む	春	秋	588
島 蘭	進	大正・昭和前期の宗教と社会(7)国民 の「熱誠」と明治神宮創建への動き	春	秋	588
彌 永	信 美	日本の「宗教」はどんなものだったか・近世編：日本「宗教」史ゼロ章と して(中)	春	秋	588
島 蘭	進	大正・昭和前期の宗教と社会(6)明治 天皇の崩御と大衆参加による神聖化	春	秋	587
彌 永	信 美	日本に「宗教」はあったか?：日本 「宗教」史ゼロ章として(上)	春	秋	587
渡 仲	幸 利	二元論の深まり：小林秀雄の『白痴』 論	春	秋	587
紅 椽	英 顕	真宗無明論	印	仏	研 66
柏 倉	明 裕	『金剛緯』の撰述目的と野客について	印	仏	研 66
東	真 行	金子大栄における無量寿経観(花園大 学における第六十八回学術大会紀要 (1))	印	仏	研 66
川 口	淳	加藤弘之の仏教批判への清沢満之の反 応(花園大学における第六十八回学術 大会紀要(1))	印	仏	研 66
森	慶 樹	機法一体の研究	行	信	学 報 30
名 畑	直日児	書評 中西直樹・近藤俊太郎編 令知会 と明治仏教(龍谷叢書41)	近	代	仏 教 25

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

栗田英彦	書評 和崎光太郎 明治の〈青年〉：立志・修養・煩悶	近代 仏教	25
白川哲夫	書評 粟津賢太 記憶と追悼の宗教社会学：戦没者祭祀の成立と変容	近代 仏教	25
岡田正彦	書評 Micah L. Auerback: A Storied Sage: Canon and Creation in the Making of a Japanese Buddha	近代 仏教	25
近藤俊太郎	書評 山本伸裕・碧海寿広編 清沢満之と近代日本	近代 仏教	25
佐藤文子	書評 オリオン・クラウタウ編 戦後歴史学と日本仏教	近代 仏教	25
渡辺健哉	書評 エリック・シッケタンツ 墮落と復興の近代中国仏教：日本仏教との邂逅とその歴史像の構築	近代 仏教	25
戸田教做	書評 西山茂 近現代日本の法華運動	近代 仏教	25
松金公正	書評 中西直樹 植民地台湾と日本仏教	近代 仏教	25
福井敬	「近代東アジア宗教の変遷と発展 学術シンポジウム(近代東亞宗教的變遷與發展學術研討會)」に参加して	近代 仏教	25
森岡清美	コンボイのライフヒストリー (吉田久一基金研究プロジェクト「仏教思想を中心とした日本近代思想史の再考」森岡清美『真宗大谷派の革新運動：白川党・井上豊忠のライフヒストリー』合評会)	近代 仏教	25
名和達宣	清沢満之と井上豊忠：近代教団史検証の指標 (吉田久一基金研究プロジェクト「仏教思想を中心とした日本近代思想史の再考」森岡清美『真宗大谷派の革新運動：白川党・井上豊忠のライフヒストリー』合評会)	近代 仏教	25
碧海寿広	近代仏教史研究から読む (吉田久一基金研究プロジェクト「仏教思想を中心とした日本近代思想史の再考」森岡清美『真宗大谷派の革新運動：白川党・井上豊忠のライフヒストリー』合評会)	近代 仏教	25

大谷 栄一	森岡社会学における『真宗大谷派の革新運動』の位置づけ（吉田久一基金研究プロジェクト「仏教思想を中心とした日本近代思想史の再考」森岡清美『真宗大谷派の革新運動：白川党・井上豊忠のライフヒストリー』合評会）	近代 仏教	25
牧野 静	宮沢トシの信仰：「我等と衆生と皆俱に」	近代 仏教	25
亀山 光明	戒律主義と国民道徳：宗門改革期の釈雲照	近代 仏教	25
片岡 英子	BC級戦犯の「追悼」の諸相とその実質：白蓮社を中心に	近代 仏教	25
長谷川 琢哉	真理と機：仏教因果説論争から見る清沢満之の思想と信仰	近代 仏教	25
塚田 穂高	永岡崇氏の書評へのリプライ	近代 仏教	24
小島 敬裕	書評 大澤広嗣 戦時下の日本仏教と南方地域	近代 仏教	24
繁田 真爾	書評 新野和暢 皇道仏教と大陸布教：十五年戦争期の宗教と国家	近代 仏教	24
小林 惇道	書評 白川哲夫 「戦没者慰霊」と近代日本：殉難者と護国神社の成立史	近代 仏教	24
武井 謙悟	書評 大谷栄一・吉永進一・近藤俊太郎編 近代仏教スタディーズ：仏教からみたもうひとつの近代	近代 仏教	24
陳 継東	書評 梁明霞 近代日本新仏教運動研究	近代 仏教	24
長谷川 琢哉	書評 三浦節夫 井上円了：日本近代の先駆者の生涯と思想	近代 仏教	24
岩田 真美	書評 中西直樹・吉永進一 仏教国際ネットワークの源流：海外宣教会（一八八八年～一八九三年）の光と影	近代 仏教	24
岡田 正彦	書評 Hans Martin Kramer: Shimaji Mokurai and the Reconceptation of Religion and the Secular in Modern Japan	近代 仏教	24
福島 栄寿	書評 川邊雄大 浄土真宗と近代日本：東アジア・布教・漢学	近代 仏教	24

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

坂井田夕起子	戦時上海の『仏教復興』試論：真宗本願寺派や中支宗教大同連盟との関係を中心に	近代仏教	24
中尾堯, 圭室文雄, 林淳	日本仏教史研究の五十年	近代仏教	24
長谷川琢哉	哲学の限界と二種深信：——「中期」清沢満之における宗教哲学の行方——	現代と親鸞	37
田村晃徳	動き出す大悲：The Original Prayer についての一考察（鈴木大拙没後50年記念特集）	現代と親鸞	36
パイマイケル	英訳『教行信証』研究会 Suzuki Daisetsu's Presentation of Buddhism to the West（鈴木大拙没後50年記念特集）	現代と親鸞	36
岩田文昭	追想 杉本耕一君の逝去を受けて（第二回清沢満之研究交流会 清沢満之から問われるもの：異領域間の「対話」は可能か?）	現代と親鸞	35
杉本耕一	今村仁司の清沢満之論と「宗教哲学」の課題（第二回清沢満之研究交流会 清沢満之から問われるもの：異領域間の「対話」は可能か?）	現代と親鸞	35
名畑直日児	清沢満之再誕：その歴史的意味（第二回清沢満之研究交流会 清沢満之から問われるもの：異領域間の「対話」は可能か?）	現代と親鸞	35
繁田真爾	方法としての〈清沢満之〉の可能性：「悪」と近代への問い（第二回清沢満之研究交流会 清沢満之から問われるもの：異領域間の「対話」は可能か?）	現代と親鸞	35
飯島孝良	唐木順三の一休論における「伝統」と「近代」	現代と親鸞	35
高橋駿仁	啓蒙の神話学：——フォントネルの神話論とその文脈——	宗教研究	92
川田牧人	江川純一・久保田浩編『「呪術」の呪縛』上巻・下巻	宗教研究	92
山口瑞穂	日本におけるエホバの証人の展開過程：終戦から一九七〇年代半ばまで	宗教研究	91

伊 達 聖 伸	書評と紹介 菅野賢治著『フランス・ユダヤの歴史』(上・下)上：古代からドレフェス事件まで 下：二〇世紀から今日まで	宗 教 研 究	91
後 藤 正 英	書評と紹介 山本伸一著『総説カバラー：ユダヤ神秘主義の真相と歴史』	宗 教 研 究	91
藤 田 大 誠	書評と紹介 江島尚俊・三浦周・松野智章編『戦時日本の大学と宗教』	宗 教 研 究	91
伊 藤 顕 慈	二〇一六年度 研究生報告論文要旨 西吟の行信論研究	浄 土 真 宗 総 合 研 究	11
南 條 了 瑛	近世東国伝道の一考察：性信前世遺骨譚 (特集テーマ 関東伝道)	浄 土 真 宗 総 合 研 究	11
鍵 主 良 敬	曇鸞大師「無生の生」の誤謬説を嘆く	親 鸞 教 学	109
延 塚 知 道	一心帰命と一心願生	親 鸞 教 学	109
高 橋 秀 慧	「勤王僧」再考 —— 戦前における研究状況を中心に ——	大正大学大学院 研 究 論 集	42
安 藤 弥	戦国期本願寺家臣団の基礎研究	東 海 仏 教	63
菱 木 政 晴	真宗伝統教学再考：高木顕明の還相回向論のルーツを求めて (廣瀬惺先生退職記念 菱木政晴先生退職記念)	同 朋 仏 教	53
仙 石 知 子	『列女傳』研究序説：中國近世における流布と受容	東 洋 の 思 想 と 宗 教	35
南 條 了 瑛	近世真宗伝道の一考察：東国における大蛇済度譚	武蔵野大学仏教 文化研究所紀要	34
古 賀 克 彦	近世の東大寺大仏千僧会等に於ける真宗と時宗・融通念仏宗の対比	武蔵野大学仏教 文化研究所紀要	34

〈現代問題〉

濱吉美穂, 釋 純寛, 大河内大博, 杉本浩章, 河本敦史, 小森昌彦	共生(ともいき)のところで考えるエンドオブライフケア：臨床宗教師・医療福祉専門職者の連携によるより良いケアを目指して シンポジウム開催報告	仏教大学総合 研 究 所 紀 要	25
吉 水 岳 彦	臨床仏教師養成プログラム発足について	仏 教 文 化 学 会 紀 要	26

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

石橋 晃 倫	人工知能と僧侶についての一考察：時間をきっかけとして	龍谷 教 学	53
武田 一 真	現実性の克服：現代社会における仏教の意義	龍谷 教 学	53
石田 智 秀	俱会一処：あるいは『プラネタリアン』に見る現代人の潜在的な欲求と仏教の救い・浄土の真宗	龍谷 教 学	53
大 在 紀	布教現場における人工知能の可能性と人間にしかできないこと	龍谷 教 学	53
森田 喜 治	児童養護施設内心理療法士の職務調査：生活担当職員の心理担当者に求める職務	龍谷大学仏教文化研究所紀要	56
峯崎 賢 亮	法式からみた時宗における葬儀の教学的意味について	時宗 教 学 年 報	46
小林 俊 暁	住民主体の地域福祉活動における寺院の役割と可能性	時宗 教 学 年 報	46
田中 信 人	時宗における葬儀の意義と実際(導師の役割を中心に)	時宗 教 学 年 報	46
貴島 信 行	真宗伝道学の基礎的考察：仏道としての伝道 (川添泰信教授定年退職記念特集号：浄土仏教と親鸞教義)	真 宗 学	137・138
深川 宣 暢	真宗念仏者における利他的行為(他者支援)の一考察：木越康・著『ボランティアは親鸞の教えに反するのか：他力理解の相克』をめぐって (川添泰信教授定年退職記念特集号：浄土仏教と親鸞教義)	真 宗 学	137・138
葛野 洋 明	国際伝道論研究の意義 (川添泰信教授定年退職記念特集号：浄土仏教と親鸞教義)	真 宗 学	137・138
中平 了 悟	浄土真宗の実践：その射程とそれを立ちあがらせるものについて (川添泰信教授定年退職記念特集号：浄土仏教と親鸞教義)	真 宗 学	137・138
打本 弘 祐	親鸞と対象喪失(上)グリーンフケアとの接点を求めて (川添泰信教授定年退職記念特集号：浄土仏教と親鸞教義)	真 宗 学	137・138
小川 健 一	天文教育に関する指導法の研究：小学校天文教材を中心に	大 谷 学 報	96(2)

渡部 洋	中国映画「大路」に見る30年代の標準語について	大谷学報	96(2)
高木 慶子	ターミナルケア、グリーンケアの現場から考える人生の喜びと悲しみの意味(二〇一七年度 春季公開講演会講演録)	大谷学報	97(1)
脇中 洋	ある死体損壊等被告事件の情状鑑定を通して	大谷学報	97(1)
武田 和哉	MLA 連携における3D デジタルアーカイブ活用に向けた一考察：M(博物館等施設)・L(図書館施設)間の課題解決を中心として	大谷学報	97(2)
今岡 達雄	社会福祉施策の方向性について(平成二十八年研究活動報告—総合研究 宗務総長諮問プロジェクト)	教化研究 (浄土宗総合研究所)	28
井野 周隆	僧侶養成に係る総合的研究(平成二十八年研究活動報告—総合研究 総合研究プロジェクト)	教化研究 (浄土宗総合研究所)	28
名和 清隆	次世代継承に関する研究(平成二十八年研究活動報告—総合研究 総合研究プロジェクト)	教化研究 (浄土宗総合研究所)	28
曾根 宣雄	浄土宗僧侶の社会実践(カウンセリング)(平成二十八年研究活動報告—総合研究 総合研究プロジェクト)	教化研究 (浄土宗総合研究所)	28
宮坂 直樹	災害対応の総合的研究(平成二十八年研究活動報告—総合研究 総合研究プロジェクト)	教化研究 (浄土宗総合研究所)	28
東海林 良昌	現代における老いと仏教(平成二十八年研究活動報告—総合研究 総合研究プロジェクト)	教化研究 (浄土宗総合研究所)	28
林田 康順	法然上人御法語集第4・5集(平成二十八年研究活動報告—応用研究 応用研究プロジェクト)	教化研究 (浄土宗総合研究所)	28
佐藤 堅正	浄土宗基本典籍の電子テキスト化(平成二十八年研究活動報告—応用研究 応用研究プロジェクト)	教化研究 (浄土宗総合研究所)	28
戸松 義晴	浄土宗基本典籍の英訳研究(平成二十八年研究活動報告—応用研究 応用研究プロジェクト)	教化研究 (浄土宗総合研究所)	28

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

市川 定敬	浄土宗基本典籍の翻訳(日常勤行式) (平成二十八年研究活動報告—応用 研究 応用研究プロジェクト)	教化研究 (浄土宗総合研究所)	28
中野 孝昭	法式研究(平成二十八年研究活動報 告—基礎研究 基礎研究プロジェク ト)	教化研究 (浄土宗総合研究所)	28
後藤 真法	布教研究(平成二十八年研究活動報 告—基礎研究 基礎研究プロジェク ト)	教化研究 (浄土宗総合研究所)	28
柴田 泰山	教学研究Ⅰ(東京)(平成二十八年研 究活動報告—基礎研究 基礎研究プ ロジェクト)	教化研究 (浄土宗総合研究所)	28
齊藤 舜健	教学研究Ⅱ(京都分室)(平成二十八 年研究活動報告—基礎研究 基礎研 究プロジェクト)	教化研究 (浄土宗総合研究所)	28
遠山 和 大, 黒田 義 道, 深見 友 紀子, 赤羽 美 希	「念仏・和讃」データベースとeラ ーニングの構築(その2)	研究紀要(京都女子大 学宗教・文化研究所)	31
宮野 純次	地域の自然を活用した自然体験と 環境教育の取り組み(2)	研究紀要(京都女子大 学宗教・文化研究所)	31
ガハブカ 奈美	宗教歌の原語演奏について:ドイ ツにおける M. ルターの宗教改革 と音楽から	研究紀要(京都女子大 学宗教・文化研究所)	31
槇村 久子	個人化・無縁化する社会の公共基 地の変化と対応	研究紀要(京都女子大 学宗教・文化研究所)	31
表 真美	アイルランド共和国の小学校にお ける宗教教育:カトリック新カリ キュラムを中心に	研究紀要(京都女子大 学宗教・文化研究所)	31
前川 佳代	庭園文化にみる京都と平泉:御室 地域と毛越寺	研究紀要(京都女子大 学宗教・文化研究所)	31
表 真美	アイルランド共和国の小学校にお ける宗教教育:カトリック新カリ キュラムを中心に	研究紀要(京都女子大 学宗教・文化研究所)	31
釋氏 真澄	アメリカ日系人強制収容と真宗国際伝 道の実際:開教使の書簡・日記を中心 に	眞宗研究	62
田中 ケネス	今後の真宗はどうあるべきか:グロー バル視点より	高田学報	106

円谷裕二	カントの超越論的哲学からアーレントの政治哲学へ：根源悪と人権概念をめぐる	哲学年報（九州大学大学院人文科学研究院）	77
東口豊	原理なき、目的なき「経過」としての自然と藝術：Th・W・アドルノの美学思想の今日的意義	哲学年報（九州大学大学院人文科学研究院）	77
堅田玄宥	伝道教学構築の可能性	行信学報	30
川井博義, 田中さをり	第十五回親鸞仏教センター研究交流サロン 現代と古典：「役立つ」学びとは？	現代と親鸞	36
加藤秀一	現代と親鸞の研究会〈生まれる〉ことをめぐる倫理学のために：〈誰〉かであることの〈起源〉	現代と親鸞	36
森岡正博	現代と親鸞の研究会 宗教性を哲学者はどう考えるか	現代と親鸞	36
下田正弘	称名念仏と浄土：現代の思想的課題からの照射（第十三回親鸞仏教センターのつどい・記念講演）	現代と親鸞	35
井手英策	現代と親鸞の研究会 尊厳と思いやりが交響する財政：次の世代がその次の世代とつながるために	現代と親鸞	35
徳重弘志	Guhyananitikala における「四種法」について：第四章の校訂テキストおよび和訳	高野山大学密教文化研究所紀要	31
奈良康明	公開講演 仏教・禅と祈り（研究会発足五十周年記念号）	駒沢大学大学院仏教学研究会年報	50
池田魯参	懐旧大学院研究会（研究会発足五十周年記念号）	駒沢大学大学院仏教学研究会年報	50
永井俊道	新潟県における教導職制度について：特に曹洞宗を中心として（永井政之教授 退任記念號）	駒沢大学仏教学部論集	48
小田淑子	イスラームの宗教性と現代（宗学院公開講座（二〇一六年度））	宗学院論集	90
小出裕章	原発と平和、幸福（宗学院公開講座（二〇一六年度））	宗学院論集	90
高山善光	宗教的な宗教現象と世俗的な宗教現象のあいだ：——宗教の判断基準はどのような要素になりうるか——	宗教研究	92

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

久保田 浩	華園聰磨著『宗教現象学入門——人間学への視線から——』	宗 教 研 究	92
浦井 聡	無宗教者の「救済」? : ——田辺元の宗教哲学における救済の絶対媒介の構造をめぐって——	宗 教 研 究	92
土居 浩	村上 晶著『巫者のいる日常——津軽のカミサマから都心のスピリチュアルセラピストまで——』	宗 教 研 究	92
高井啓介	渡辺和子著『エサルハドン王位継承誓約文書』	宗 教 研 究	92
津田謙治	中西恭子著『ユリアヌスの信仰世界——万華鏡のなかの哲人皇帝——』	宗 教 研 究	92
井関大介	熊沢蕃山の「大道」と「神道」	宗 教 研 究	92
権 東 祐	教派神道の朝鮮布教からみる近代神道の様相：——神道修成派・黒住教・神宮教を事例に——	宗 教 研 究	92
伊達聖伸	藤原聖子著『ポスト多文化主義教育が描く宗教——イギリス〈共同体の結束〉政策の功罪——』	宗 教 研 究	92
杉村靖彦	星川啓慈著『宗教哲学論考——ワイトゲンシュタイン・脳科学・シュッツ——』	宗 教 研 究	92
佐藤啓介	書評と紹介 関西学院大学キリスト教と文化研究センター編『現代文化とキリスト教』	宗 教 研 究	91
藤田正勝	書評と紹介 岡村康夫著『シェリング哲学の蹟き：『世界時代』の構想の挫折とその超克』	宗 教 研 究	91
島田勝巳	書評と紹介 八巻和彦著『クザーヌス生きている中世：開かれた世界と閉じた世界』	宗 教 研 究	91
土橋茂樹	書評と紹介 土井健司著『救貧看護とフィランスロピア：古代キリスト教におけるフィランスロピア論の生成』	宗 教 研 究	91
宮嶋俊一	書評と紹介 佐藤啓介著『死者と苦しみの宗教哲学：宗教哲学の現代的可能性』	宗 教 研 究	91

中山 郁	書評と紹介 粟津賢太著『記憶と追悼の宗教社会学：戦没者祭祀の成立と変容』	宗 教 研 究	91
高橋 典史	書評と紹介 三木英編『異教のニューカマーたち：日本における移民と宗教』	宗 教 研 究	91
大西 克明	書評と紹介 内村琢也著『東亞連盟運動と石原莞爾』	宗 教 研 究	91
岩野 祐介	書評と紹介 柴田真希都著『明治知識人としての内村鑑三：その批判精神と普遍主義の展開』	宗 教 研 究	91
岡田 正彦	書評と紹介 山本伸裕・碧海寿広編『清沢満之と近代日本』	宗 教 研 究	91
守屋 友江	書評と紹介 阿満利麿著『日本精神史：自然宗教の逆襲』	宗 教 研 究	91
對馬 路人	書評と紹介 平山昇著『初詣の社会史：鉄道が生んだ娯楽とナショナリズム』	宗 教 研 究	91
板井 正斉	書評と紹介 ジョン・ブリーン編『変容する聖地 伊勢』	宗 教 研 究	91
何 燕生	書評と紹介 頼住光子著『さとりと日本人：食・武・和・徳・行』	宗 教 研 究	91
清水 邦彦	書評と紹介 村上紀夫著『京都地蔵盆の歴史』	宗 教 研 究	91
小柳 敦史	キリスト教と「運命」：プロテスタント神学における「西洋の没落」の残響	宗 教 研 究	91
嶋田 弘之	書評と紹介 塩崎悠輝著『国家と対峙するイスラーム：マレーシアにおけるイスラーム法学の展開』	宗 教 研 究	91
塩崎 悠輝	書評と紹介 大川玲子著『チャムパ王国とイスラーム：カンボジアにおける離散民のアイデンティティ』	宗 教 研 究	91
岡本 亮輔	書評と紹介 安田慎著『イスラミック・ツーリズムの勃興：宗教の観光資源化』	宗 教 研 究	91
笠井 正弘	書評と紹介 西山茂著『近現代日本の法華運動』	宗 教 研 究	91

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

芳賀	学	書評と紹介 寺田喜朗・塚田穂高・川又俊則・小島伸之編者『近現代日本の宗教変動：実証的宗教社会学の視座から』	宗 教 研 究	91
山中	弘	消費社会における現代宗教の変容（特集 宗教と経済）	宗 教 研 究	91
堀江	宗正	職場スピリチュアリティとは何か：その理論的展開と歴史的意義（特集 宗教と経済）	宗 教 研 究	91
別所	裕介	聖地を切り売りする人々：現代チベットの経済開発と民衆的信仰空間の特性（特集 宗教と経済）	宗 教 研 究	91
長岡	慎介	岐路に立つイスラーム金融：異端派が切り開く新たな将来ビジョンとポスト資本主義時代におけるその可能性（特集 宗教と経済）	宗 教 研 究	91
津田	謙治	初期キリスト教教父思想におけるオイコノミア概念：否定神学、悪の問題を手掛かりとして（特集 宗教と経済）	宗 教 研 究	91
住家	正芳	宗教経済学における合理性：合理性の理論的位置づけについての試論（特集 宗教と経済）	宗 教 研 究	91
川又	俊則	教団会計と意識調査にみる人口減少時代の維持困難さ：経済的側面を中心に（特集 宗教と経済）	宗 教 研 究	91
金子	奈央	宗教共同体における死と私有財産：禅清規における唱衣法の記述から（特集 宗教と経済）	宗 教 研 究	91
岩井	洋	宗教と経営：宗教経営学の視点から（特集 宗教と経済）	宗 教 研 究	91
市川	裕	ユダヤ教の経済観念：正しい道理の富（特集 宗教と経済）	宗 教 研 究	91
荒川	敏彦	マックス・ヴェーバーの宗教社会学における宗教と経済：著作間の相互連関を問う（特集 宗教と経済）	宗 教 研 究	91
多田	修	現代人は仏教に何を求めているか：アマゾンランキングを通しての考察	浄土真宗 総合研究	11
雲居	玄道	葬儀・仏前結婚式に関して：統計データの取り方と分析方法	浄土真宗 総合研究	11

丘 山 願 海	発刊にあたって	浄土真宗 総合研究	11
河 田 純 一	「がん患者」になる、「がん患者」として生きる ——再帰的自己論を用いた「がん患者」の自己アイデンティティの考察——	大正大学大学院 研究論集	42
大 場 あ や	契約講究の成果と課題 ——分野横断的な検討から——	大正大学大学院 研究論集	42
魚 尾 和 瑛	ハワイにおける日系仏教団の現地法人設立と組織の変容 ——財団法人布哇浄土宗教団の設立を事例に——	大正大学大学院 研究論集	42
青 木 裕 子	花井記念室および結城豊太郎記念館に保管されている高楠家の人々からの書簡：花井稲子と結城豊太郎宛ての書簡四通について	武威野大学仏教 文化研究所紀要	34
青 木 裕 子	花井記念室および結城豊太郎記念館に保管されている高楠家の人々からの書簡：花井稲子と結城豊太郎宛ての書簡四通について	武威野大学仏教 文化研究所紀要	34

〈講演・シンポジウム〉

平 岡 聡	公開講演 初期大乘経典誕生の背景	佛教学セミナー	105
山 本 和 彦	二〇一七年度 新入会員歓迎講演 四住期とブッダの言葉	佛教学セミナー	106
神 居 文 彰	私の行く浄土（佛教文化学会第26回学術大会 シンポジウム録 大会テーマ『地獄と極楽：いま、その意義を問い直す』）	仏教文化 学会紀要	26
今 井 秀 和	地獄と妖怪：近世の妖怪画における地獄絵図像の撰取と変容（佛教文化学会第26回学術大会 シンポジウム録 大会テーマ『地獄と極楽：いま、その意義を問い直す』）	仏教文化 学会紀要	26
森 覚	この世の写し鏡としてのあの世：仏教絵本に見る地獄（佛教文化学会第26回学術大会 シンポジウム録 大会テーマ『地獄と極楽：いま、その意義を問い直す』）	仏教文化 学会紀要	26

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

曾根 宣雄	基調講義 「浄土三部経」に説かれる極楽浄土（佛教文化学会第26回学術大会 シンポジウム録 大会テーマ『地獄と極楽：いま、その意義を問い直す』）	仏教会文紀要	26
神達 知純	基調講義 日本仏教における地獄の諸相（佛教文化学会第26回学術大会 シンポジウム録 大会テーマ『地獄と極楽：いま、その意義を問い直す』）	仏教会文紀要	26
塩入 法道, 村上 興匡	開会の辞/趣旨説明（佛教文化学会第26回学術大会 シンポジウム録 大会テーマ『地獄と極楽：いま、その意義を問い直す』）	仏教会文紀要	26
内藤 知康	記念講演 浄土真宗の人間観	龍谷教 学	53
安藤 光慈, 小堀 聡樹, 松尾 茂宣	第五十三回大会シンポジウム 人間とはなにか：科学者と仏教者の対話を通して	龍谷教 学	53
武田 龍精	第86回仏教文化講演会記録 親鸞聖人全撰述英訳にかかわる仏典翻訳論：浄土真宗本願寺派編 CWS 事業に従事して	龍谷大学仏教文化研究所紀要	56
長澤 昌幸	遊行七祖他阿弥陀仏述『条条行儀法則』講説	時宗教学年報	46
脇坂 真弥	《私》という偶然をめぐって（二〇一七年度 春季公開講演会講演録）	大谷学報	97(1)
前川 佳代	宗教・文化研究所公開講座講演録要旨 庭園文化にみる京都と平泉：御室地域と毛越寺	研究紀要（京都女子大学宗教・文化研究所）	31
野口 実	宗教・文化研究所公開講座講演録要旨 京都と鎌倉	研究紀要（京都女子大学宗教・文化研究所）	31
能仁 正顕	仏教文化公開講座講演録 大乘仏教の展開と仏説論	研究紀要（京都女子大学宗教・文化研究所）	31
加来 雄之	講演 第二十三回 真宗大谷派教学大会「仏の名号」と仏身仏土：撰化として実現する名号の世界（浄土という世界観）	真宗教学研究	38
高田 信良	第二十四回 真宗教学学会 講演会「本願力回向の宗教」の宗祖、親鸞聖人：本願を信じ念仏を申さば仏に成る	真宗教学研究	38

小川 一 乘	第二十四回 真宗教学学会 講演会 「証」の二重性と「念仏成仏」	真宗教学研究	38
大田 利 生	記念講演 阿弥陀仏と阿閼仏の浄土	真宗研究	62
石垣 靖 子	第一回光華講座 相手を人として尊重 するということ：人間尊重の倫理原則	真宗文化	27
大田 利 生	一講演一浄土三部経と親鸞聖人	山口真宗教学	28
岡田 正 彦	シンポジウム コメント	近代仏教	25
佐藤 弘 夫	シンポジウム 仏の消えた浄土：日蓮 と近代法華仏教の距離	近代仏教	25
STONE Jacqueline I.	シンポジウム 戦時下における日蓮門 下と「不敬」問題：抑圧と抵抗の意義	近代仏教	25
BURENINA Yulia	シンポジウム 日蓮主義研究における 新たなアプローチの試み：田中智学と 本多日生にみる日蓮仏教の再解釈/再 構築	近代仏教	25
大谷 栄 一	シンポジウム 近代法華仏教研究の成 果と課題：とくに二〇〇〇年代以降の 研究史を中心に	近代仏教	25
大谷 栄 一	シンポジウム 「近代法華仏教研究の 新たな展開」の趣旨	近代仏教	25
安中 尚 史	シンポジウム 移民布教と仏教文物	近代仏教	24
本多 彩	シンポジウム アメリカに移民した日 本人女性たちと仏教	近代仏教	24
守屋 友 江	シンポジウム 移民とともにつくる仏 教会：日系アメリカ仏教雑誌からみた 仏教会の形成過程と活動	近代仏教	24
守屋 友 江	シンポジウム 「太平洋をまたぐ日系 仏教の諸相」の趣旨	近代仏教	24
本多 弘 之	深層意識の自覚化（第十三回親鸞仏教 センターのつどい・記念講演）	現代と親鸞	35
蓑輪 顕 量	公開講演 中世初頭の仏教界に見る学 問と修行（永井政之教授 退任記念號）	駒沢大学仏教 学部論集	48
永井 政 之	最終講義 「異類中行」私考：禅僧の 民衆教化（永井政之教授 退任記念號）	駒沢大学仏教 学部論集	48

平成二九年度 真宗学関係研究論文目録

伊 東 昌 彦	「親鸞」なのか、「禅」なのか：東京都23区周辺における講演会・講座(2015年度報告)	浄土真宗 総合研究	11
佐藤達全, 山崎和子, 山室吉孝, 橋本弘道, 仙田 考, 下室覚道, 木村清孝	パネルディスカッション・質疑応答 (公開シンポジウム記録 平成二十九年度鶴見大学仏教文化研究所公開シンポジウム 仏教に学ぶ保育の原点)	鶴見大学仏教 文化研究所紀要	23
仙 田 考	仏教・保育・子どもの環境：保育における環境とは、仏教・保育・栽培の関わり (公開シンポジウム記録 平成二十九年度鶴見大学仏教文化研究所公開シンポジウム 仏教に学ぶ保育の原点)	鶴見大学仏教 文化研究所紀要	23
橋 本 弘 道	保育者論としての仏教保育：仏教保育の理念と授業実践 (公開シンポジウム記録 平成二十九年度鶴見大学仏教文化研究所公開シンポジウム 仏教に学ぶ保育の原点)	鶴見大学仏教 文化研究所紀要	23
山 室 吉 孝	幼児期における道徳教育及び宗教教育：「利他」の心を育てる (公開シンポジウム記録 平成二十九年度鶴見大学仏教文化研究所公開シンポジウム 仏教に学ぶ保育の原点)	鶴見大学仏教 文化研究所紀要	23
山 崎 和 子	現場における仏教保育：子どもたちの幸せを願って (公開シンポジウム記録 平成二十九年度鶴見大学仏教文化研究所公開シンポジウム 仏教に学ぶ保育の原点)	鶴見大学仏教 文化研究所紀要	23
佐 藤 達 全	仏教に学ぶ保育の原点 (公開シンポジウム記録 平成二十九年度鶴見大学仏教文化研究所公開シンポジウム 仏教に学ぶ保育の原点)	鶴見大学仏教 文化研究所紀要	23
谷 口 富士夫	書評 Adelheid Mette, Noriyuki Kudo, Ruriko Sakuma, Chanwit Tudkeao, and Jiro Hirabayashi, eds., Further Mahayanasutras : Gilgit Manuscripts in the National Archives of India Facsimile Edition Volume II.4	東 海 仏 教	63
寺 本 亮 晋	ナポリにおける国際シンポジウムの報告	東洋の思想と 宗 教	35

山 口 一 樹	「若手研究者問題」シンポジウム二〇一七」記録	日 本 史 研 究	657
河 内 春 人	全体会シンポジウム 全大会報告批判 (二〇一六年度日本史研究会大会報告批判)	日 本 史 研 究	656
サムエル C・モース	日本宗教文化史学会二十周年記念講演 西洋から見た日本宗教文化史：研究方法とそこから浮かびあがる特質 (西洋から見た日本宗教文化史：研究方法とそこから浮かびあがる特質)	日 本 宗 教 文 化 史 研 究	21
末 木 文 美 士	基調講演録 親鸞における自力と他力	武蔵野大学仏教 文化研究所紀要	34

[付記] ここに掲載しました論文は、平成29(2017)年4月より平成30(2018)年3月までに発表されたものです。掲載漏れの論文も多いかと思いますが、何卒ご容赦下さい。この目録は龍谷大学図書館に収蔵されている雑誌を中心に集めております。もし掲載漏れ・誤植等お気づきの際には、お手を煩わせませんが、真宗学会までご連絡頂ければ幸いです。

CONTENTS

- The Peculiarity of *the Virtue of the Name of Amida Tathāgata*
in Shinran's Texts (1).....Hisashi Tonouchi (1)
- On the significance of the Seventeenth Vow in the
Chapter on PracticeYoshiyuki Inoue (21)
- Object loss and Shinran — Seeking Connect with Grief Care,
second volume.Koyu Uchimoto (54)
- The “Subject of Aspiring for Birth in the Pure Land” (*kemyōnin*
仮名人 [Provisionally-called Person]) in Shinran's Thought
.....Norio Watanabe (85)
- Shinran's Perspective Toward the Path of Sages
.....Yoshinari Henmi (106)
- The issues of subject in studies about “practice” in
Shin Buddhist StudiesGaku Irie (122)
- ‘Birth, Aging, Sickness, and Death’ in the Age of Nuclear Weapons
in the Hope that They will be Totally Abolished on the Earth
.....Ryusei Takeda (143)
- Shinran's Idea of Realization in Shinjin and Nembutsu
.....Mitsuya Dake (1)

SHINSHUGAKU

JOURNAL
OF
SHIN BUDDHIST STUDIES

Nos. 139

March 2019

SHINSHU GAKKAI

Research Association of Shin Buddhist Studies

Ryukoku University

Shichijo Omiya, Shimogyo-ku

Kyoto, Japan

